

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 前期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護の本質						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護の本質は看護学の土台であり、最初に学ぶ専門科目です。看護とは、人が健康的な生活を営みその人らしく生きるためになされるケアです。看護の本質を理解するためには、看護の主要概念である人間、健康、環境、看護について理解し、看護の対象・目的・役割・機能について学ぶ必要があります。また、看護を継続するためには多職種で連携し、そのためには看護師としてのキャリアを積んでいく必要があります。ここでは各看護学領域や方法論に向けた看護学全体の基本的な内容を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 看護の対象である人間(生活者、環境との関連、欲求、成長・発達)について理解したことが述べられる 2. 健康観・健康と環境・健康問題について理解し、健康な生活を送るために応用することができる 3. 看護についての考え方(先人含め)が分かり自己の看護観構築の手助けとする 4. 保健医療チーム・多職種連携について理解し、キャリア開発を含めたチームの中での自己の在り方を考える手助けとする									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	情報リテラシー、心理学、健康と社会、生活行動からみるからだ、チーム医療、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ			
◎		◎	◎						
教科書・参考図書									
専門看護 基礎看護学【1】 看護学概論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 人間科学としての看護学	・授業の概要と目標、授業の進め方や評価について説明 ・看護学を学ぶにあたり ・看護の本質 ・看護の定義				専任教員	事前：シラバスを読んでくる 看護とは何かを自分の言葉で整理しておく		
第2回	看護の過去から現在まで 看護の歴史	・看護の歴史 ▶近代以前の看護 ▶近代の看護 ▶現代の看護 ・職業としての看護				専任教員	事後：講義内容を復習する		
第3回	看護実践に必要な4つの概念 ①人間	・人間の「こころ」と「からだ」を知る ▶マズロー欲求階層論 ▶ヘンダーソン基本的ニード ・				専任教員	事前：成長発達するとは何か自分の言葉で整理しておく		
第4回	看護実践に必要な4つの概念 ①人間	・人間の「暮らし」の理解 ▶生活者としての人間 ▶看護の対象としての家族・集団・地域				専任教員	事前：暮らしおよび生活者とは何かを自分の言葉で整理しておく 事後：自分が考えていた生活者・暮らしと授業内容を比較し理解を深める		
第5回	看護実践に必要な4つの概念 ②健康	・健康の捉え方 ▶健康とは何か ▶障がいとはなにか ▶健康と生活 ・国民の健康状態 ・国民のライフサイクル				専任教員	事前：健康とは何かを自分の言葉で整理しておく 事後：健康について自分の言葉でまとめる		

第6回	看護実践に必要な4つの概念 ③環境	- 環境とは ▶ 内部環境－外部環境 ▶ 人間－環境系という考え方 - ナイチンゲールの看護覚書から看護を考える ▶ 換気と保温、陽光、小管理、物音、食事	専任教員	事前：環境とは何か自分の言葉で整理しておく 事後：環境について自分の言葉でまとめる
第7回	看護実践に必要な4つの概念 ④看護	- 看護の役割と機能 ▶ 看護におけるケア - サービスとしての看護 - サービスを提供する場	専任教員	事後：看護についてのケアをまとめる
第8回	看護実践に必要な4つの概念 ④看護	- 看護実践とその質保証に必要な要件 - 医療安全と医療の質保証 ▶ インシデントレポートの活用	専任教員	事前：教科書の該当ページを読んでき
第9回	看護実践のための理論 ①	- 看護理論とは - 様々な看護理論 ▶ オレム、トラベルビー、ロイワトソン、ペプロウ	専任教員	事前：教科書の該当ページおよび配布資料を読んでき
第10回	看護実践のための理論 ②	- ナイチンゲールから看護を考える ▶ ナイチンゲールの経歴 ▶ 功績 ▶ 4つの概念 ▶ 病人の観察	専任教員 GW	事前：配布資料を読んでき
第11回	看護実践のための理論的根拠③	- ヘンダーソン「看護の基本となるもの」から看護を考える ▶ ヘンダーソンの経歴 ▶ 功績 ▶ 4つの概念 ▶ 基本的ニーズ	専任教員	事前：配布資料を読んでき
第12回	看護の本質とは	- 看護とは何か ▶ 病院・施設見学及び今までの授業を通してまとめる - 看護を実践していく上で必要な能力とは何か	専任教員	
第13回	看護制度	- 看護制度 ▶ 看護に関する法律の位置づけ ▶ 保健師助産師看護師法 - 看護行政 ▶ 労働環境 ▶ 労働安全衛生 ▶ 診療報酬と看護	専任教員	事前：保健師助産師看護師法と診療報酬について調べてくる
第14回	専門職としての看護	- 専門職の要件 ▶ 専門職としての役割と自律 - 拡大する看護活動の場	専任教員	事後：講義の内容を復習する
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
はじめての看護の専門科目で、看護は答えのないことを考えることが多く、聞きなれない言葉については自分で調べ学習をしてください。また、事後学習は毎回授業資料の最後にありますので、各自まとめておいてください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 前期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
共通看護技術						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
看護技術は、看護の対象者に行う看護の手法や手段です。それは、感覚器で得た情報を分析して実施方法を頭で考え、それを伝達して全身で看護の対象者に表現するものであり、それらのすべてに相手を思いやる心が必要です。また、看護の実践に共通する技術の基礎となります。 ここでは、看護技術の概念と目的、意義を学びます。さらに、看護技術の基本的機能である「環境調整」「コミュニケーション」「ボディメカニクス」「感染防止」の知識を学び、援助方法を身に付けることを目的とします。									
到達目標									
1. 看護技術の特徴を述べることができる 2. 関係構築のためのコミュニケーションの基本的な方法を説明できる 3. 感染防止の意義が述べられ、感染予防行動を原理・原則に沿って実施できる 4. ボディメカニクスの基本原理が述べられ、安楽・安全、効果的・効率的に実施できる 5. 健康的な生活環境を整えるための知識が述べられ、援助方法を実施できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、生活の基本、情報リテラシー、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、看護の本質			
◎	◎	◎			◎				
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ 医学書院									
専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
専門分野 看護の統合と実践【2】医療安全 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	授業のガイダンス 看護技術		- 授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 - 看護技術の特徴 看護技術の質 - 看護技術における倫理 - リフレクション			専任教員	事前：シラバスの内容を読む 事後：リフレクションを記載する		
第2回	感染防止①		- 感染とその予防の基礎知識 - 標準予防策 - 感染経路別予防策 演習内容 衛生的手洗い、個人防護具 個人演習			外部講師 演習 (実習室)	事前：衛生的手洗い、個人防護具の動画を視聴する 事後：演習の振り返り		
第3回	観察・報告・連絡・相談・記録		- 看護における観察 - 観察の意義と目的 - 看護記録の目的とその内容			専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：観察レポート		
第4回	コミュニケーション①		- コミュニケーションの意義と目的 - ミスコミュニケーション - 関係構築のためのコミュニケーションの基本 演習内容 (GW) ロールプレイを通して、接近的コミュニケーションを考える			専任教員 ロールプレイ	事前：コミュニケーションに必要な態度をまとめる 事後：演習の振り返り		
第5回	ボディメカニクス		ボディメカニクスの基本 演習内容 (GW) 生活から考えるボディメカニクスを保つための姿勢と動作 看護の場面で活用されるボディメカニクスを考える			専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：看護の場面で活用するボディメカニクスについてまとめる		

第6回	環境調整①	- 療養環境の意義と目的 - 療養環境 - 病床を整える援助 - 環境のアセスメント	専任教員 GW	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：環境のアセスメントに必要な観察項目をまとめる
第7回	環境調整②	演習内容 - 環境整備 - 個人演習	専任教員 演習 (実習室)	事前：環境の動画を視聴する 事後：振り返り
第8回	環境調整③	演習内容 基本のベッドメイキング デモンストレーション 個人演習 臥床患者のリネン交換 (GW) 技術試験のオリエンテーション	専任教員 演習 (実習室)	事前：ベッドメイキングの動画を視聴する 事後：演習振り返り
第9回	環境調整④	安全・安楽・自立を考慮した療養環境を考え整える	専任教員 演習 (実習室)	事前：安全・安楽な環境整備、コミュニケーションについて復習する 事後：振り返り
第10回	コミュニケーション②	- カンファレンスとは 演習内容 - グループでカンファレンスを実施するカンファレンスの記録	専任教員 演習	事前：学校生活で気になるテーマを考えてくる 事後：カンファレンス記録
第11回	感染防止②	- 感染性廃棄物の取り扱い - 洗浄、消毒、滅菌の基礎知識 演習内容 ガウンテクニック・マスクの着脱 - 個人演習	外部講師 演習 (実習室)	事前：第2回目の講義内容を復習する 事後：演習の振り返り
第12回	感染防止②	無菌操作の基礎知識 演習内容 (GW) 無菌操作の実際	外部講師 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：演習の振り返り
第13回	職業感染	- 看護師が直面する職業感染 - 職業感染への予防策 - 抗がん剤の暴露 - 放射線被爆	外部講師	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：講義内容の振り返り
第14回	環境調整④	技術試験 ベッドメイキング	専任教員 試験 (実習室)	事後：振り返りと自己課題を記載する
第15回	筆記試験	筆記試験後、まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：90% 技術試験：10% ベッドメイキング				
授業を受けるにあたっての留意点など				
- 実習室使用の際は、学生便覧の規定に沿った身だしなみをお願いします。ジャージ着用の場合もあるため、教員の指示に従ってください。 - ベッドメイキングの技術確認は、3回以上演習し臨んでください。 - 教科書の動画は事前に視聴し、講義に臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 前期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
食事・排泄援助技術						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護技術は、各看護学、看護学論及び看護の実践に共通する技術の基礎となります。そして、人間の健康を促進するために必要な日常生活行動の援助に関わる基本の援助方法の原理・原則が必要です。 ここでは、人間にとっての食事・栄養(食べる)と排泄(トイレに行く)の意義を理解して、対象が健康生活を送るために必要な援助の方法を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 食事と栄養に関する基礎知識が説明できる 2. 栄養状態のアセスメントが述べられる 3. 食事・栄養に関する援助が実施できる 4. 排尿・排便に関する基礎的知識が説明できる 5. 排尿・排便のアセスメントが述べられる 6. 排尿・排便の援助が実施できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、生活の基本、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、看護形態機能学Ⅱ、共通看護技術			
◎	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法	授業外学習		
		主題(単元)	内容						
第1回		授業ガイダンス 栄養状態のアセスメント	- 授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 - 食事・栄養の意義 - 食事・栄養摂取のアセスメント ▶ 栄養状態・食事の摂取内容、客観的指標(計算機使用) ▶ 食事動作、セルフケアの程度 ▶ 食事を阻害する要因			専任教員	事前：形態機能学Ⅱ 食べるの観察項目を復習する 事後：食べるのアセスメントに必要な観察項目を追加する		
第2回		食事介助	安全・安楽な食事介助を考える			専任教員	事前：形態機能学Ⅱの嚥下の復習をする 事後：食事介助の観察項目と留意点をまとめる		
第3回		非経口的栄養摂取の援助	- 経管栄養法 - 中心静脈栄養法 - 口腔ケア - 義歯のケア			専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：口腔ケアの観察項目と留意点をまとめる		
第4回 第5回		食事介助の実際	演習内容 嚥下障害がない方の食事介助と口腔ケア 個人演習 モデル人形を用いた経鼻胃チューブの挿入 個人演習 ・まとめ			専任教員 演習 (実習室)	事前：食事介助、口腔ケアの動画を視聴する 事後：演習の振り返り		
第6回		排尿・排便のアセスメント	- 排泄の意義 - 排泄のアセスメント ▶ 尿・便の性状 ▶ 排泄行動、セルフケアの程度 ▶ 排泄を阻害する因子 - 排泄援助方法・用具の選択			専任教員	事前：形態機能学Ⅱのトイレに行くを復習する 事後：トイレに行くのアセスメントに必要な観察項目を追加する		

第7回	排泄の援助 ①	・自然な排泄を促すための排泄援助を考える	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：尿器・便器を用いた排泄援助の観察点と留意点をまとめる
第8回	排泄の援助 ②	演習内容 差し込み便器 尿器 ポータブルトイレ 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：排泄の援助の動画を視聴する 事後：演習の振り返り
第9回	排泄障害のある患者の援助	・排泄異常のある方の排泄援助を考える 頻尿 尿失禁 排尿困難 尿閉 下痢 便秘 便失禁	専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：膀胱留置カテーテル挿入時の観察項目、方法、留意点をまとめる
第10回 第11回	おむつ交換と陰部洗浄	演習内容 おむつ交換・陰部洗浄 個人演習 ・まとめ ・技術試験のオリエンテーション	専任教員 演習 (実習室)	事前：陰部洗浄・おむつ交換の動画を視聴する 事後：演習の振り返り
第12回 第13回	排泄障害のある患者の	演習内容 導尿、膀胱留置カテーテルの適応と留意点 個人演習 モデル人形を用いた膀胱留置カテーテルの挿入と管理 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：滅菌操作の復習 事後：演習の振り返り
第14回	おむつ交換と陰部洗浄	技術試験 おむつ交換と陰部洗浄	専任教員 (実習室)	事後：演習の振り返りと自己課題
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	

評価方法

筆記試験：90%

技術試験：10% 陰部洗浄とおむつ交換

授業を受けるにあたっての留意点など

実習室使用の際は、学生便覧の規定に沿った身だしなみをお願いします。ジャージ着用の場合もあるため、教員の指示に従ってください。

人体の構造と機能が深く関係しています。該当箇所を復習し、授業に参加してください。教科書の動画は事前に視聴してください。

食事介助時に以下の物品を使用します。授業開始までに準備をしてください

①昼食、はし、スプーン ②フェイスタオル2枚 ③湯呑またはコップ1個

④歯ブラシセット1セット

陰部洗浄とおむつ交換の技術試験は3回以上演習し、臨んでください。

陰部洗浄時に以下の物品を使用します。授業開始前までに準備をしてください。

①バスタオル(大判が望ましい)1枚 ②フェイスタオル1枚 ③雨合羽(下のみ)1本

④泡石鹸(ボトル)1本 ⑤5分丈スパッツ(防水性が望ましい)

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 前期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
活動・休息援助技術						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護技術は、各看護学、看護学論及び看護の実践に共通する技術の基礎となります。そして、人間の健康を促進するために必要な日常生活行動の援助に関わる基本の援助方法の原理・原則が必要です。 ここでは、人間にとっての活動・運動(動く)と休息と睡眠(眠る)の意義を理解して、対象が健康な生活を送るために必要な援助の方法を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 活動の基礎知識が説明できる 2. 活動のアセスメントが述べられる 3. 活動を支援する援助が実施できる 4. 休息・睡眠の基礎的知識が説明できる 5. 休息・睡眠のアセスメントが述べられる 6. 休息・睡眠を促す援助の実際を具体的に述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、生活の基本、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、共通看護技術			
◎	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法	授業外学習		
		主題(単元)	内容						
第1回		授業ガイダンス 活動の基礎知識	・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・活動の意義 ・活動の生理学的メカニズム(体位、良肢位)			専任教員	事前：シラバスの内容・教科書の該当範囲を読む		
第2回		睡眠・休息の基礎知識	・睡眠・休息の意義 ・睡眠・休息のメカニズム ・睡眠障害のアセスメント			専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：睡眠障害についてまとめる		
第3回		睡眠・休息を促す援助	・睡眠・休息のアセスメント ・休息の援助技術 ・睡眠を促す援助技術			専任教員	事前：自分の生活リズムと睡眠について考える 事後：眠るのアセスメントに必要な観察項目をまとめる		
第4回		活動のアセスメント	・活動のアセスメント ▶ 廃用症候群とそのリスクアセスメント ▶ 廃用症候群の症状 ・体位の種類			専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：廃用症候群予防の看護についてまとめる		
第5回		運動機能の低下した人への援助①	・運動機能のアセスメント 演習内容 体位・動作の観察 ・まとめ			専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：動くのアセスメントに必要な観察項目をまとめる		
第6回		運動機能の低下した人の援助②	・体位変換の目的 ・体位変換の留意点 ・体位の種類と身体への影響			専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：体位の種類と身体への影響をまとめる		

第7回	体位変換	演習内容 仰臥位→側臥位 側臥位→仰臥位 枕の取り方 側臥位→腹臥位 側臥位→長坐位 ベッド上方移動 仰臥位→端坐位 端坐位→仰臥位 デモンストレーション 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む、体位変換の動画を視聴する 事後：演習の振り返り
第8回	安静保持の援助	- 安静保持の目的 ▶安静度の意味 - 同一体位による影響を考える	専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：同一体位による影響を整理する
第9回	安楽な体位	演習内容 (GW) ポジショニングの実際 背抜き デモンストレーション 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 GW (実習室)	事前：ポジショニングの動画を視聴する 事後：演習の振り返り
第10回	歩行の援助	- 歩行介助の目的 - 歩行介助の留意点 - 自助具の種類 演習内容 歩行介助、杖歩行の介助と階段昇降 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む、動画視聴 事後：演習の振り返り
第11回 第12回	移動の援助	- 移乗・移送の援助の基礎知識 - 車椅子移動の援助の実際 - ストレッチャー移動の援助の実際 演習内容 車椅子移乗・移送 ストレッチャー移乗・移送 デモンストレーション 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む、動画視聴 事後：演習の振り返り
第13回	活動を支援する援助①	事例患者に必要な援助を考える	専任教員	事前：動くのアセスメントに必要な観察項目を復習する 事後：全体像用紙をまとめる
第14回	活動を支援する援助②	発表	専任教員 GW	事後：学びを整理する
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	

評価方法

筆記試験：100%

授業を受けるにあたっての留意点など

実習室使用の際は、学生便覧の規定に沿った身だしなみでお願いします。ジャージ着用の場合もあるため、教員の指示に従ってください。

人体の構造と機能、形態機能学Ⅱの講義が深く関係しています。当該箇所を復習し、授業に参加してください。教科書の動画は事前に視聴してください。

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 後期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
清潔援助技術						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護技術は、各看護学、看護学論及び看護の実践に共通する技術の基礎となります。そして、人間の健康を促進するために必要な日常生活行動の援助に関わる基本の援助方法の原理・原則が必要です。 ここでは、人間にとっての清潔・衣生活(お風呂にはいる)の意義を理解して、対象が健康生活を送るために必要な援助の方法を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 清潔の基礎知識が説明できる 2. 衣生活の基礎知識が説明できる 3. 清潔・衣生活のアセスメントが述べられる 4. 清潔・衣生活を支援する援助が実施できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、共通看護技術、活動・休息援助技術			
○	○	○							
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法	授業外学習		
		主題(単元)	内容						
第1回		授業ガイダンス 清潔の基礎知識	・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・清潔の意義 ・皮膚・粘膜の構造と機能 ・日本人の清潔習慣 ・身体の清潔方法 ・スキンケアの基本			専任教員	事前：形態機能学Ⅱのお風呂に入る、皮膚・粘膜の解剖生理学を復習する 事後：練習問題に取り組む		
第2回		病床での衣生活の援助	・衣生活の意義 ・療養に適した衣服の条件 ・病衣の交換(動画の視聴) 演習内容 寝衣交換 デモンストラーション						
第3回		臥床患者の寝衣交換	演習内容 臥床患者の寝衣交換 個人演習 ・まとめ			専任教員 演習 (実習室)	事前：寝衣交換の動画を視聴する 事後：演習の振り返り		
第4回		清潔・衣生活のアセスメントと援助	・皮膚・粘膜・爪・髪の状態 ・清潔動作、習慣 ・セルフケアの程度 ・清潔のニーズを阻害する要因 演習内容 爪切り・電動かみそり 個人演習						

第5回	入浴 全身清拭	- 入浴、シャワー浴、特殊浴の援助の基礎知識 - 入浴と生体反応 - 援助の実際 - シャワー浴時の介助位置を考える - 全身清拭の目的と意義、根拠 - 実施前評価 - 方法	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：自立神経反応と目的別入浴温度
第6回 第7回	臥床患者の全身清拭の実際	演習内容 臥床患者の全身清拭 デモンストレーション 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：全身清拭の手順書、動画視聴 事後：演習の振り返り
第8回	洗髪	- 洗髪の意義と目的 - 実施前評価 - 方法 - 実施後評価	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：洗髪の手順の追加
第9回 第10回	ベッド上での洗髪の実際(洗髪器を使用)	演習内容 洗髪 デモンストレーション 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：洗髪の手順書、動画視聴 事後：演習の振り返り
第11回	手浴・足浴	- 手浴・足浴の意義と目的 - 実施前評価 - 方法 - 実施後評価	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：手浴・足浴の手順の追加
第12回 第13回	手浴・足浴	演習内容 足浴(臥床・端坐位) 手浴 個人演習 ・まとめ	専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む 動画視聴 事後：演習の振り返り
第14回	臥床患者の全身清拭	実技試験 臥床患者の全身清拭	専任教員	事前：テキストの全身清拭の手順書に追加する 事後：演習の振り返りと自己課題
第15回	筆記試験	・筆記試験後、まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：90% 技術試験：10% 臥床患者の全身清拭				
授業を受けるにあたっての留意点など				
実習室使用の際は、規定に沿った身だしなみをお願いします。 人体の構造と機能が深く関係しています。当該箇所を復習し、授業に参加してください。教科書の動画は事前に視聴してください。 全身清拭の技術試験は3回以上、演習をしてから臨んでください。 清潔の演習時に以下の物品を使用します。授業開始までに準備をしてください。 全身清拭 ①バスタオル(大判が望ましい)1枚 ②フェイスタオル 2枚 ③泡石鹸(ボトル)1本 ④前開きパジャマ(ボタンつき)2組 ⑤スポーツブラ(女子学生) 整容 ①爪切り(できるだけ大きめのもの) ②電気髭剃り(自宅で使っているもの可) 洗髪 ①フェイスタオル2枚 ②シャンプー 1本 ③リンスまたはコンディショニング1本(リンスINシャンプー可) ④ブラシ(普段使用しているもの)1本				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 後期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
フィジカルアセスメント						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護技術は、各看護論、看護学概論及び看護の実践に共通する技術の基盤となります。ここでは、ヘルスアセスメントの目的と意義を理解して、対象の健康状態を身体的・心理的・社会的・生活的側面から総合的にアセスメントするための知識と基本的技術を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. ヘルスアセスメントの意義が説明できる 2. 対象を身体的・心理的・社会的・生活的側面で捉える必要性が述べられる 3. 身体情報を得るための基本的技術を用いフィジカルアセスメントが述べられる 4. 対象の身体情報について健康レベルや正常・異常が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術			
○	○	○							
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ 医学書院 岡庭豊 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA 山内 豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	授業ガイダンス ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント		・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・ヘルスアセスメントの目的・意義 ・フィジカルアセスメントの目的・意義 問診 健康歴、病歴聴取の仕方・面接技法			専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：問診時の看護者の心構えをまとめる		
第2回	基本技術		・フィジカルアセスメントの基本技術 視診、触診、打診、聴診			専任教員 演習	事前：該当する教科書の範囲を読む、基本技術の動画を視聴する 事後：できるだけ多くの人の橈骨動脈、上腕動脈を触知する		
第3回	身体計測		・身体計測の意義と目的 ・身体計測の結果と健康状態の評価 ▶身長・体重、腹囲測定、皮下脂肪測定 個人演習			専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：演習の振り返り		
第4回 第5回	バイタルサイン①②		・バイタルサイン測定の意義 ・バイタルサインの変動とその要因 ・体温、脈拍、呼吸、血圧、意識のアセスメント			専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む、体温測定・脈拍測定の動画を視聴する 事後：バイタルサインの変動因子をまとめる 血圧測定		
第6回	バイタルサイン③		演習内容 バイタルサイン測定 ・バイタルサイン測定技術試験のオリエンテーション			専任教員 演習 (実習室)	事前：バイタルサイン測定の動画を視聴する 各測定項目の手技を練習して講義に臨む 事後：振り返り、生命徴候のアセスメントに必要な観察項目をまとめる		

第7回	報告・記録	- 報告 ▶ ISBARC - 検温表の記載	専任教員	事前：共通看護技術の報告を復習する 事後：検温表の記載
第8回	呼吸器系のアセスメント	呼吸器系のフィジカルイグザミネーション 呼吸音聴取 演習内容 視診、聴診、触診、打診	専任教員 演習 (実習室)	事前：呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの動画を視聴する 事後：振り返り
第9回	循環器系のアセスメント	循環器系のフィジカルイグザミネーション 心音聴取、心尖拍動の触診 演習内容 視診、触診、聴診	専任教員 演習 (実習室)	事前：循環器系のフィジカルイグザミネーションの動画を視聴する 事後：振り返り
第10回	腹部のアセスメント	腹部のフィジカルイグザミネーション 腸蠕動音の聴診 演習内容 聴診、触診、打診	専任教員 演習 (実習室)	事前：消化器系のフィジカルイグザミネーションの動画を視聴する 事後：振り返り
第11回	感覚系、外皮系のアセスメント	- 感覚器(眼・耳)のフィジカルイグザミネーション 視覚、聴覚、平衡感覚 - 外皮系(皮膚・爪)のフィジカルイグザミネーション	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む、動画を視聴する 事後：見る・聞く・話す感じるのアセスメントに必要な観察項目をまとめる
第12回	筋・骨格系、脳神経系のアセスメント	- 筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション 徒手筋力テスト(MMT) 関節可動域の測定(ROM) - 神経系のフィジカルイグザミネーション 運動機能評価、感覚器の評価、小脳機能評価、反射	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：動くのアセスメントに必要な観察項目を追加する
第13回	心理・社会状態のアセスメント	- 心理・社会状態のアセスメント - セルフケア能力のアセスメント	専任教員	事前：テキストと該当範囲を読む 事後：心理・社会面のアセスメントに必要な観察項目をまとめる
第14回	バイタルサイン測定	技術試験 バイタルサイン測定	専任教員 演習 (実習室)	事前：技術試験要項を読む、必要物品を準備する 事後：実施の振り返りと自己課題を明確にする
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：90% 技術試験：10% バイタルサイン測定				
授業を受けるにあたっての留意点など				
人体の構造と機能が深く関係しています。当該箇所を復習し、臨んでください。教科書の動画は事前に視聴してください。 バイタルサイン測定の技術試験は3回以上演習し、臨んでください。 バイタルサイン測定時までに以下の物品を準備してください。 ①血圧計(組み立て作動状況を確認してくる) ②聴診器 ③ナースウォッチ ④クリップボード				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2 年次 前期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
治療を支える援助技術						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護技術は、各看護学、看護学論及び看護実践に共通する技術の基礎となります。そして、対象の健康の維持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために行われる援助技術です。ここでは、看護師の業務範囲や法的責任を理解した上で、様々な治療や治療を受ける対象の心理を理解し、安全・安楽に治療を行うための知識と技術を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 様々な治療の意義と目的が述べられる 2. 様々な治療の種類や特徴、治療を受ける対象への身体や心理的影響が理解できる 3. 様々な治療を支える看護師の役割が述べられる 4. 個々に行われる治療の観察点や留意点、方法が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅰ～Ⅵ、臨床検査、臨床薬理学、病気の発生とメカニズム、栄養と健康、微生物と病気、共通看護技術			
○	○	○							
教科書・参考図書									
看護が見える vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野 基礎看護学【4】 臨床看護総論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	安静療法		・ 授業の概要と目標、授業の進め方について ・ 治療方法の多様化 ・ インフォームドコンセント／アドヒアランス ・ 安静療法の目的と意義 ・ 安静療法の特徴と、安静療法が対象に与える身体的・精神的影響について ・ 看護の役割			専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる		
第2回	食事療法		・ 食事療法の目的と意義 ・ 食事療法の特徴と、食事療法が対象に与える身体的・精神的影響について ・ 看護の役割			専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる 事後：レポート① 糖尿病患者の献立作成		
第3回	運動療法①		・ 運動療法の目的と意義 ・ 運動療法の種類と特徴 ・ 運動療法の効果と副作用 ・ 循環器、呼吸器、運動器のリハビリテーションの実際(調べ学習)(GW)			専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる		
第4回	運動療法②		・ 循環器、呼吸器、運動器のリハビリテーションの実際(発表)			専任教員	事後：発表を聴いての感想		
第5回	放射線療法		・ 放射線療法の目的 ・ 放射線療法の種類と特徴 ・ 放射線療法を受ける患者の看護			専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる		

第6回	与薬に関する基礎知識	- 薬物療法の目的と意義 - 薬物の体内動態・作用と効果・薬効に影響する因子 - 関係法規 - 看護の役割	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる
第7回	与薬方法と効果の観察①	- 経口与薬法 - 口腔内与薬法 - 直腸内与薬法 演習内容 (GW) 経口与薬の方法 モデル人形を用いた直腸内与薬法	専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる 事後：演習の振り返り
第8回	与薬方法と効果の観察②	- 皮膚用製剤の塗布、貼付 - 点眼・点入法 - 吸入法 演習内容 (GW) 塗布剤の方法 皮膚貼付剤の方法	専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる 事後：演習の振り返り
第9回	注射法の種類と特徴	- 注射法の目的と意義 - 種類、適応と禁忌、観察、留意点と方法 - 各種注射に共通する実施方法	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる
第10回	注射法の実際①	演習内容 (GW) - アンプルの吸い上げ方 - モデル人形を用いた皮下注射 - モデル人形を用いた筋肉注射 (上腕・臀部)	専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる 事後：演習後の振り返り
第11回	注射法の実際②	- 輸液ポンプの操作 ▶ 動画視聴 演習内容 (GW) モデル人形を用いた点滴静脈内注射の固定と管理	専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる 事後：演習後の振り返り
第12回	輸血療法	- 輸血療法の目的・意義 - 輸血の種類と副作用 - 輸血療法の方法	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる
第13回	酸素吸入療法 人工呼吸療法	- 酸素吸入療法および人工呼吸療法の目的と意義 ▶ 動画視聴 - 酸素吸入法の方法 - 人工呼吸療法中の患者の援助 演習内容 (GW) モデル人形を用いて酸素吸入療法の実施	専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読んでくる 事後：演習の振り返り
第14回	シミュレーション	事例学習	専任教員 演習 (実習室)	事後：シミュレーション演習の振り返り
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
臨床でこの科目で学んだことが活かせるように予習復習をして講義に臨んでください。 事前事後学習は各自でノートにまとめてください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
検査・処置援助技術						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護技術は、各看護学、看護学論及び看護実践に共通する技術の基礎となります。診療の補助及び検査・処置援助技術は、看護師が行う診療の補助業務の1つとして位置づけられています。ここでは、診療及び検査・処置の目的とそれらを受ける患者の心理を理解し、診療や検査・処置が安全に安楽に実施できるための知識と技術を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 診察及び検査・処置の目的や方法がわかる 2. 診察及び検査・処置を受ける患者の心理や看護師の役割を理解し援助できる 3. 目的に合わせた創傷の処置の目的と留意点がわかり実践できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査、微生物と病気			
◎	◎	◎	◎						
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野 基礎看護学【4】 臨床看護総論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 看護師が行う診療の補助	・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・診療の補助の目的と看護師の役割を考える(GW)				専任教員 GW	事前：シラバスの内容を事前に読む		
第2回	創傷管理技術①	・創傷管理の基礎知識 ▶皮膚の構造、創傷の種類、創傷治癒過程 ・創傷の観察				専任教員	事前：皮膚・粘膜の解剖生理学を復習する 事後：創傷治癒過程をまとめる		
第3回	創傷管理技術②	・創傷の処置(包帯) ▶包帯法の原則、取り扱い方 演習内容 包帯法 三角布の使い方				専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：演習の振り返り		
第4回	創傷管理技術③	・創傷処置の介助の実際 ・創傷処置の方法(ドレッシング材) ▶効果的なドレッシング材の条件 演習内容 絆創膏の固定とはがし方 モデル人形を用いたドレッシング材を用いた創傷処置方法				専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：演習の振り返り		
第5回	褥瘡予防①	・褥瘡発生のメカニズム ・褥瘡の予測と評価 ・体圧測定				専任教員	事前：褥瘡治療に用いる外用剤の種類と作用についてまとめる		

第6回	主な検体検査	- 検査における看護師の役割 - 排泄物の検査 ▶尿、便、喀痰 - 体液・組織の検査 - 血液検査 ▶採血、血液ガス、簡易血糖検査法 演習内容 検査の介助	専任教員 演習 (実習室)	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：テキストの採血の手順を追加する
第7回 第8回	検体検査の 実際	演習内容 モデル人形を用いた採血 簡易血糖測定	専任教員 演習 (実習室)	事前：採血、血糖測定の動画を視聴する 事後：演習の振り返り
第9回	生体検査、体 液・組織検査 ①	- 生体検査、体液・組織検査の目的と介助方法、留意点と前・中・後の看護についてグループワークでまとめる ①レントゲン検査、マンモグラフィー ②画像検査(CT・MRI) ③内視鏡検査(上部) ④内視鏡検査(下部) ⑤超音波検査 ⑥生理機能検査(スパイロメトリ) ⑦12誘導心電図検査症体液 ⑧穿刺(腰椎・骨髄) ⑨穿刺(胸腔・腹腔) ⑩核医学検査	専任教員 GW	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：生体検査の目的と留意点、看護についてまとめる
第10回	生体検査、体 液・組織検査 ②	検体・生体検査の目的と方法、留意点、検査前・中・後の看護について発表	専任教員 GW	事前：発表の準備をする 事後：発表を通してわかったこと、学んだことを振り返る
第11回	医療機器 検査の介助	- 医療機器の安全管理と操作 ▶血管留置カテーテルモニター ▶心電図モニター 医療機器を必要とする患者の看護 診断・観察用の医療機器の種類	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む
第12回 第13回	生体検査の 実際	- 生体検査の見学 - レントゲン検査・マンモグラフィー・画像検査(CT)・内視鏡検査・超音波検査・生理機能検査(スパイロメトリ)・12誘導心電図	専任教員	事前：作成した冊子を読み質問を考えてくる 事後：見学の学び
第14回	シミュレー ション	事例学習	専任教員 演習室	事前：課題に取り組む 事後：シミュレーション演習の振り返り
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
グループでは、学習目的・目標を達成できるように主体的・積極的に取り組みましょう。 見学では、見学の目的・目標を達成できるように事前に質問を考えて臨みましょう。また、挨拶・返事など意思表示をしましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護実践のプロセス						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護過程とは、看護実践(活動)をより科学的に実践するために用いる思考過程です。この思考は、全ての人が生活する上で用いる問題解決思考を基盤に構築されています。 ここでは、紙上事例を展開しながら、科学的思考を訓練し、対象のもつ課題を導き、それぞれの健康課題に対して、一貫した適切な看護ケアを提供するための基礎的能力を養うことを目的とします。									
到達目標									
1. 看護過程の意義を述べることができる 2. 事例を通して看護過程のプロセスを説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅰ～Ⅵ、臨床検査、臨床薬理学、病気の発生とメカニズム、栄養と健康、看護の本質、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術、臨床看護総論			
	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 専門分野 基礎看護学【4】 臨床看護総論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	看護過程の土台①	・看護過程とは ▶問題解決法、クリティカルシンキング、リフレクション 演習内容 思考のトレーニング(個人)				専任教員 個人ワーク	事前:教科書の該当範囲を読む、共通技術のリフレクションを復習 事後:本日の学習内容を整理する		
第2回	看護過程の土台②	・看護過程の構成 ・アセスメント、看護問題、看護計画、実施、評価 ・情報収集の目的と意義 ▶情報収集の枠組とデータベース ▶一般的情報収集と重点的情報収集 ・事例患者の提示				専任教員	事前:該当する教科書の範囲を読む 事後:事例の事前学習を進める		
第3回	病態関連図	・病態関連図の活用方法 演習内容 病態関連図に観察項目を記載する				専任教員	事前:資料を読む 事後:病態関連図に観察方法を追加する		
第4回 第5回	情報収集①②	演習内容 事例患者の情報を整理する ・データベース				専任教員 GW	事後:データベースを仕上げる		
第6回	アセスメント①	・アセスメントの目的と意義 ・アセスメントガイドの活用方法 ▶アセスメントの視点 「食べる」のアセスメント				専任教員	事前:該当する教科書の範囲を読む 事後:「食べる」のアセスメントを進める		
第7回	アセスメント②	・事例患者のアセスメントの実際 演習内容 ・生命兆候(グループ)				専任教員 GW	事後:各アセスメントの視点を整理する 各項目のアセスメントを進める		

第8回	アセスメント③	- 事例患者のアセスメントの実際 - 演習内容 - トイレに行く(個人)	専任教員 個人ワーク	事前:各項目のアセスメントを進める 事後:「トイレに行く」のアセス
第9回	アセスメント④	事例患者のアセスメントの実際からの振り返り(グループ)	専任教員 GW	事前:各項目のアセスメントを進める 事後:アセスメントガイドの整理をする
第10回	全体像の描写①	- 全体像の目的と意義 ▶優先順位の考え方 ▶アセスメントと情報関連図の関連性	専任教員	事前:該当する教科書の範囲を読む
第11回	全体像の描写②	演習内容 アセスメントした内容を用いて情報関連図を作成(個人)	専任教員 個人ワーク	事後:情報関連図の作成をする
第12回	全体像の描写③	演習内容 アセスメントした内容を用いて情報関連図の共有(GW)	専任教員 個人ワーク	事後:情報関連の追加・修正をする
第13回	看護計画①	- 看護計画 ▶看護問題、患者目標、看護介入の関係性 演習内容 - 個人で1つの看護問題に対して看護計画を立案する(個人)	専任教員 個人ワーク	事前:該当する教科書の範囲を読む 事後:看護計画を立案する
第14回	看護計画②	- 評価について ▶SOAP記録 ・中間評価 ・短期目標評価	専任教員 GW	事後:SOAP記録を書く、看護計画を追加・修正する
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験:100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
この講義は、個人ワークが多いです。困ったことやわからないことなどは積極的にクラスメイトや教員へ相談していきましょう。 1年生の形態機能学Ⅱ、各援助技術で作成した観察項目のプリントを持参してください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
臨床看護総論						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
臨床看護総論では、看護の対象の健康レベル、症状、治療、問題を理解し、その人の状態に応じた看護方法を学びます。ここでは、健康障害を持つ対象の看護実践する基礎となる様々な症状のメカニズムを想起し症状を訴える対象に応じた看護が実践できるための観察力と判断力を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 生活行動に影響を及ぼす症状のメカニズムについて説明できる 2. 症状を緩和するための援助について述べられる 3. 症状を示す対象の看護の特徴について説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活と健康、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅰ～Ⅴ、臨床検査、臨床薬理学、病気の発生とメカニズム、栄養と健康、共通看護技術、フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術			
	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【4】 臨床看護総論 医学書院 小田正枝 プチナース 症状別看護過程 照林社									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 臨床看護における看護師の役割 健康障害の経過からみた看護	●授業の概要と目標、授業の進め方についての説明、評価について説明 ●臨床という場の特徴 ●臨床看護に臨む姿勢 ●臨床看護における看護師の役割 ●経過別看護 ▶急性期・回復期・慢性期・終末期の定義と特徴				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する 該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第2回	高体温・低体温	●症状が起こるメカニズム ●観察とアセスメント、看護				専任教員	事前：形態機能学Ⅱの生きる・生活をするための体のしくみを復習する 事後：温罨法・冷罨法の方法をまとめる		
第3回	倦怠感	●症状が起こるメカニズム ●観察とアセスメント、看護				専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：問題に取り組む		
第4回	疼痛	●症状が起こるメカニズム ●観察とアセスメント、看護				専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：問題に取り組む		
第5回	呼吸困難	●症状が起こるメカニズム ●観察とアセスメント、看護				専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：問題に取り組む		
第6回	咳嗽・喀痰	●症状が起こるメカニズム ●観察とアセスメント、看護				専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：問題に取り組む		

第7回	呼吸を整える援助の実際	効果的な呼吸法と喀痰喀出法の実際 演習内容 体位ドレナージ 気管内吸引・口腔内吸引・鼻腔内吸引 ネブライザー	専任教員 演習 (実習室)	事前：動画視聴と手順方法を読む 事後：演習の振り返りを記載する
第8回	循環不全 ショック①	- 循環障害に関連する症状が起こるメカニズム - ショックの定義と分類	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：定義と分類を整理してまとめる
第9回	ショック②	ショックの観察とアセスメント、看護	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第10回	浮腫①	各種要因から症状が起こるメカニズム	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第11回	浮腫②	観察とアセスメント、看護	専任教員	事前：前回の復習をしておく 事後：講義内容を復習する
第12回	悪心・嘔吐	- 症状が起こるメカニズム - 観察とアセスメント、看護	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：練習問題に取り組む
第13回	搔痒感	- 症状が起こるメカニズム - 観察とアセスメント、看護	専任教員	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：練習問題に取り組む
第14回	シミュレーション	呼吸困難感のある患者の観察	専任教員	事前：課題に取り組む 事後：シミュレーション演習の振り返り
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
解剖生理学、形態機能学Ⅱ、フィジカルアセスメント、病気の発生とメカニズムなど関連する科目を復習し授業に臨んでください。 事前事後学習は各自でノートにまとめて理解を深めてください。				

分野		開講時期		単位(時間)	
専門分野		2年次 後期		1単位 15時間	
科目名		科目種類	担当教員		
看護研究Ⅰ		講義	専任教員		
授業の目的および概要					
看護研究では、不可分な総合体としての人間そのもの、およびそのような人間をとりまく健康に関連した現象そのものを取り扱います。その方法には、自然科学を基盤とした量的研究、人間科学を基盤とした質的研究、両者を統合した混合研究があります。これらの方法を通じて、看護行為の機能を抽出・定義・説明し、また看護行為の効果を検証します。看護研究は、看護におけるさまざまな問題を解決し、看護ケアの質の向上を目指すものでなければなりません。ここでは看護研究に対する理解を深め、研究に必要な態度と技術を身につけることを目的とします。					
到達目標					
1. 看護研究の目的と意義が説明できる 2. 研究の手順と倫理的配慮について説明できる 3. 研究デザインの種類と各デザインの特徴がわかる 4. 文献検索ができる 5. 文献クリティークの方法がわかる					
この授業が目的としているDPや関連する科目					
DPとの関連性				関連する科目	
①	②	③	④	⑤	⑥
				◎	◎
考える力、情報リテラシー、倫理学、看護の本質					
教科書・参考図書					
別巻 看護研究 医学書院					
授業計画	授業内容			担当/ 講義方法	授業外学習
	主題(単元)	内容			
第1回	授業ガイダンス 看護研究とは	・講義の概要と目標、授業の進め方、評価方法について説明 ・研究とは何か ・看護研究の歴史 ・看護研究の目的と意義および特性 ・批判的思考と論理的思考		専任教員	事前：シラバスの内容を読む
第2回	研究の手順 倫理的配慮 文献検索	・研究の手順 ・研究における倫理 ・文献検索の方法		専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む
第3回	研究デザイン①	・研究デザインの選択 ・質的研究の種類と特徴 ▶事例研究／質的記述的研究 内容分析／グラウンデッドセオリー ・量的研究の種類と特徴 ▶実態調査研究／相関研究／実験研究		専任教員 GW	事前：テキストの該当範囲を読む [GW] 担当した研究を調べる
第4回	データ収集	・データの収集方法 ▶インタビュー、アンケート調査、尺度		専任教員 GW	事前：テキストの該当範囲を読む [GW] アンケートの作成
第5回	データの分析①	・質的データの解釈と量的データの分析 ▶アンケート結果の分析		専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む
第6回	データの分析②	・アンケートの分析結果からアンケート内容について振り返る ・アンケート作成時の留意点などを考える		専任教員 GW	事前：テキストの該当範囲を読む [GW] アンケート結果の分析および振り返り

第7回	研究デザイン②	・調べた研究デザインの特徴を発表	専任教員 GW	事前：発表の練習・準備
第8回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
看護研究Ⅰは看護研究への理解を深めるための科目です。次年時には1事例を選定しケーススタディをまとめますので、この科目で看護研究の目的と意義について理解し、文献検索できる能力を身につける必要があります。グループワークがありますので、自分の意見や自分にできることを積極的に発信し取り組んでいきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						3年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護研究Ⅱ						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護研究とは、疑問や未知の看護現象を明らかにするために科学的方法を用いた組織的探求です。看護研究を行う意義は、良い看護実践をするための知識や理論を手に入れる、看護の質を高める、専門職としての資質の向上を図るなどがあります。 ここでは、看護を発展させるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につけます。そして、学びを活用しケーススタディを行います。また、発表を通して他者の意見を聞くことで、実践した看護を意味付け、看護観の育成を図ることを目的とします。									
到達目標									
1. ケーススタディを実施できる 2. 相手が理解できる表現でケーススタディを発表できる 3. ケーススタディ発表会での質疑応答に参加できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	考える力、情報リテラシー、倫理学、看護の本質、看護研究Ⅰ			
				◎	◎				
教科書・参考図書									
別巻 看護研究 医学書院									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法		授業外学習	
		主題(単元)		内容					
第1回		授業ガイダンス ケーススタディとは		・講義の概要と目標、授業の進め方について説明、評価について説明 ・ケーススタディとは何か(研究デザインにおける位置づけ) ・ケーススタディの研究としての意義 ・ケーススタディの限界		専任教員		事前：シラバスの内容を確認する	
第2回		研究の手順 文献検索		・研究の手順について ▶ 研究計画書の書き方 ・文献検索について ▶ 文献の種類 ▶ 文献検索		専任教員 個人ワーク			
第3回		研究論文のクリティーク ケーススタディの書き方		・論文を読む ▶ 批判的に読む力を身につける ▶ クリティークのポイント ・ケーススタディの書き方について		専任教員 GW		事前：クリティークの資料を読む	
第4回		研究計画書作成①		・研究計画書を作成する ・研究したい内容を明らかにする		専任教員		事後：研究に必要な文献検索 第5回までに1回実習担当教員チェックをうける	
第5回		研究計画書作成②		・研究計画書作成完成		専任教員		事後：期日までに研究計画書を提出する	
第6回		研究計画書発表		・研究テーマ・動機の紹介発表		専任教員			
第7回		ケーススタディ①		・ケーススタディを作成する		専任教員			

第8回	ケーススタディ②	・ケーススタディを作成する	専任教員	事後：ケーススタディの作成
第9回	ケーススタディ③	・担当教員から指導をもらい、修正する	専任教員	事後：ケーススタディの作成
第10回	ケーススタディ④	・担当教員から指導をもらい、修正する	専任教員	事後：ケーススタディを完成させる
第11回	ケーススタディ⑤	・発表原稿の作成 ・発表の練習	専任教員	事後：発表の練習
第12回	発表・報告①	発表者 ・全学生が発表を行う ・発表原稿を活かし発表する ・質問に対し、答える 参加者 ・疑問点などを質問する ・クリティーク的な視点で質問する	専任教員	事前：第12回に発表するケースを読み、質問を考えてくる
第13回	発表・報告②	発表者 ・全学生が発表を行う ・発表原稿を活かし発表する ・質問に対し、答える 参加者 ・疑問点などを質問する ・クリティーク的な視点で質問する	専任教員	事前：第13回に発表するケースを読み、質問を考えてくる
第14回	発表・報告③	発表者 ・全学生が発表を行う ・発表原稿を活かし発表する ・質問に対し、答える 参加者 ・疑問点などを質問する ・クリティーク的な視点で質問する	専任教員	事前：第14回に発表するケースを読み、質問を考えてくる
第15回	発表・報告まとめ	発表者 ・全学生が発表を行う ・発表原稿を活かし発表する ・質問に対し、答える 参加者 ・疑問点などを質問する ・クリティーク的な視点で質問する 全ての発表を聞き、自己が行った看護の意味を再度考える	専任教員	事前：第15回に発表するケースを読み、質問を考えてくる 事後：レポートを作成する
評価方法				
ケーススタディ：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
臨地実習で行った看護を用いて研究を進めていきます。自分は何に興味があるのか、自分が何を明らかにしたいのかを考え領域実習に臨むと必要な情報が収集できると思います。また、それらを意識し看護を実施することで自己の看護に対する考えを深めることにもつながります。 臨地実習を行いながらの、講義になりますので、計画的に進めていきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 後期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
地域・在宅看護論入門						講義		専任教員・外部講師	
授業の目的および概要									
在宅看護は、地域で生活しながら療養する人々とその家族のQOLを高め、自立して生活できるように保健・医療・福祉のあらゆる面から支援します。近年の在宅医療の進展とともに、疾病や障害を持ちながらも在宅で生活を希望している人々が増加しています。療養する人々の生活を基盤として、保健医療福祉機関に属する他職種と連携・協働し、療養する人々や家族に看護を実践する必要があります。 ここでは在宅看護の対象を理解し、その特性を学び、在宅医療における特徴的な基本的問題を理解し、在宅医療における看護の役割を考えることを目的とします。また、看護の価値観も多様化する中で、家族調整力の必要性を理解し、個人と家族を総合的にとらえ、地域で暮らす生活者とその家族の支援について学びます。 さらに、地域で療養しながら生活するすべての人々とその家族が自立して生活できるように支える地域包括ケアシステムと訪問看護の特徴と安全管理についても学ぶことが目的です。									
到達目標									
1. 在宅看護の対象者の特性とその支援が理解できる 2. 地域で生活している療養者と家族の生活を支援するために必要な関係職種が理解できる 3. 入院中に患者および家族が在宅で望む生活が送れるために必要な退院調整がわかる 4. 地域で療養者および家族が望む生活を送るための看護師の役割が述べられる 5. 訪問看護制度とサービス提供の具体的な内容がわかる 6. 社会資源の活用がわかる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	チーム医療、看護の本質、家族看護論			
◎			◎						
教科書・参考図書									
地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 専門分野 地域・在宅看護論【1】 地域・在宅看護の基礎 医学書院 長谷川素美 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 在宅看護の 目指すもの	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明 ・在宅看護とは ・在宅看護の場の広がり ・地域・在宅看護活動 ・在宅看護における看護師の役割				専任教員	事前：シラバスの内容を確認しておく		
第2回 第3回	地域・在宅看護の 対象者と提供機関	・年齢、疾患、障害、在宅療養状態別にみた対象者の特徴 ・外来看護、訪問看護、施設での看護、通所サービスでの看護 ・グループワーク ・発表				専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく		
第4回	在宅療養を 支援する仕 組み	・地域包括ケアシステム ・症状マネジメントとケア ・地域包括ケアシステムにおける多職種・多職種連携 ・フォーマルサービスとインフォーマルサービス				専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく		
第5回	在宅看護の 基本となるもの	・在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメント ・地域包括ケアと地域ケア会議				専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく		

第6回	療養の場の移行	・退院支援・退院調整 ・入退院時における医療機関との連携	専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第7回	訪問看護の概要	・訪問看護の変遷 ・訪問看護の提供方法と種類	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第8回	在宅看護にかかわる法的枠組み	・医療保険制度 ・介護保険制度	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第9回 第10回	訪問看護サービスの仕組みと提供	・訪問看護サービス開始までの流れ ・訪問看護サービスの管理・運営 ・訪問看護サービスの質保証	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第11回 第12回	在宅看護における安全と健康危機管理	・在宅看護における危機管理 ・日常生活における安全管理（熱傷・凍傷の防止、熱中症の防止、感染症の防止、閉じこもりの予防） ・グループワーク ・発表	専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第13回	災害に対する準備と対応	・災害対策の必要性 ・災害発生時～慢性期	専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第14回	基本理念・倫理	・地域・在宅看護を展開するための基本理念 ・倫理的問題	専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
各講義に対して、予習、復習を行い、学習を深めてください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
在宅療養を支える看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
在宅で療養しながら生活する人々及び家族が自立して生活するためには、療養者に必要な医療処置や日常生活行動が療養者自身あるいは家族の援助の基に実施できることが望ましい。しかし、在宅療養者の疾病構造の複雑化に伴う医療処置の高度化、家族の価値観の変化、介護者の高齢化など社会の変化に伴い、療養者自身が行うあるいは家族が介護者の役割を担うには困難な現状があり、保健福祉医療者には、在宅で療養する人々及び家族の多様なニーズへの対応が求められています。 さらに、多様な疾患や障害で療養しているあらゆる健康段階・発達段階、様々な治療・処置を受けている人々に対応していかなければいけません。 ここでは在宅における日常生活技術、医療処置を伴う技術を理解し、在宅で提供する看護技術の基礎を学びます。また、在宅に多い疾患を持つ対象や終末期にある対象の在宅での健康問題を理解し、その看護方法を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 在宅療養における医療処置を伴う看護が理解できる 2. 在宅の場における看護技術が理解し、実践ができる 3. 特徴的な対象の基本的な問題点を理解し、看護の役割について考えることができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ、Ⅱ、チーム医療、看護の本質、共通看護技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、臨床看護総論、検査・処置援助技術、地域・在宅看護論入門、生活を支える在宅援助技術			
◎	◎	◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 専門分野 地域・在宅看護論【2】 地域・在宅看護の実践 医学書院 長谷川素美 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 在宅看護介入時期別の看護①	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明 ・在宅療養準備期～終末期				専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく		
第2回	特徴的な疾患がある療養者の看護	・在宅看護と重症心身障害児ケア ・在宅看護と認知症、要介護高齢者ケア ・在宅看護と精神障害ケア				専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく		
第3回	特徴的な疾患がある療養者の看護	・在宅看護と難病ケア ・事例の提示				専任教員	事前：講義内容のところを読み学習しておく		
第4回	医療ケアの原理原則	・在宅療養を支える医療ケアの目的 ・対象の特徴と自立支援 ・リスクマネジメント ・療養者と家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援				専任教員	事前：シラバスを読んでくこと。講義内容のところを読み学習しておく		
第5回	栄養に関する在宅看護技術	・在宅中心静脈栄養法 ・中心静脈栄養法を実施している療養者への看護 ・末梢点滴静脈注射法				外部講師	事後：演習の振り返りを行う		

第6回 第7回	呼吸に関する在宅看護技術	- 在宅療養の場における呼吸ケアの特徴 - 呼吸に関するアセスメントと援助の実際 演習内容 排痰ケア、肺炎予防についての演習	外部講師 演習 (実習室)	事前：講義内容のところを読み学習しておく 事後：演習の振り返りを行う
第8回	呼吸に関する在宅看護技術	- 在宅酸素療法 - 在宅酸素療法患者へのケア	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第9回	呼吸に関する在宅看護技術	- 在宅人工呼吸療法 (HMV) - 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) - 気管切開下間欠的陽圧換気療法 (TPPV) - 在宅に向けての準備、家族への指導	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第10回 第11回	褥瘡管理	- 在宅における褥瘡ケアの意義 - 褥瘡管理 - 足病変のケア 演習内容 褥瘡予防のケア、褥瘡の洗浄、創傷処置について	外部講師 演習 (実習室)	事前：講義内容のところを読み学習しておく 事後：演習の振り返りを行う
第12回	在宅における腹膜透析管理	- 腹膜透析の目的、療養者の特徴 - 日常ケアの指導と援助	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第13回	疼痛管理	- 薬物療法 - 服薬管理 - 疼痛管理のアセスメント、援助の実際 - 社会資源の活用	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第14回	在宅看護介入時期別の看護②	- 在宅における終末期の看護 - グリーフケア - 終末期の体の変化	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
各講義に対して、予習と復習を行い、学習を深めてください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
生活を支える在宅援助技術						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
在宅は地域で療養しながら生活するすべての人々と家族の「住まい」であり日常生活の場です。そこでは多くの人々との関わりがあり、その中で自分らしい生活を営んでいます。生活支援の一部として在宅看護が必要となった場合、看護者は対象となる人々やそれらを取り巻く人々を理解し、療養しながら生活するうえでの問題点を総合的に理解することが必要になります。 看護者は療養者と家族の個別性を尊重しながら、生活の中で実施される日常生活行動への援助が24時間いつどのような形で必要になるのかを明らかにし、さらに在宅で実践できる能力が求められます。 ここでは在宅における日常生活の支援方法を理解し、在宅で提供する看護技術の基礎を学びます。									
到達目標									
1. 在宅療養に必要な日常生活支援の方法について理解できる 2. 事例展開により在宅看護の役割をイメージできる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ、Ⅱ、チーム医療、看護の本質、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、地域・在宅看護論入門			
◎	◎	◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 専門分野 地域・在宅看護論【2】 地域・在宅看護の実践 医学書院 長谷川素美 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 在宅療養を支える基本的技術	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明 ・在宅におけるコミュニケーション ・訪問マナー				外部講師	事前：シラバスを読んでくること		
第2回	環境と活動 感染予防	・在宅療養環境の基本 ・住環境整備、住宅改修について ・生活リハビリテーション ・在宅での感染予防				外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく		
第3回	食生活	・在宅療養の場における食生活の特徴 ・食に関するアセスメントと援助の実際 ・口腔ケアと嚥下訓練の実際、低栄養の予防				外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく		
第4回	食生活	演習内容 口腔ケア 嚥下訓練				外部講師 演習 (実習室)	事前：演習に必要な準備をすること 事後：演習の振り返りを行う		
第5回	在宅経管栄養法と輸液管理	・在宅における経管栄養法の意義と目的 ・経管栄養法のアセスメント、援助の実際				外部講師			
第6回	排泄	・在宅療養の場における排泄の基本 ・排泄のアセスメントと援助の実際 ・尿失禁、便失禁への支援 ・排泄補助用具の種類と選択方法				外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく		

第7回	排泄	演習内容 浣腸、摘便 ▶ 浣腸と摘便の目的、方法等シミュレーション モデルを使って体験する	外部講師 演習 (実習室)	事前：演習に必要な準備をすること 事後：演習の振り返りを行う
第8回	排泄に関する在宅看護技術	- 排尿ケア(間欠的導尿、膀胱留置カテーテル管理) - 在宅におけるストーマ管理	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第9回	移動・移乗	- 在宅における移動と肢位の保持の重要性 - 移動能力にかかわる身体機能のアセスメントと移動の実際	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第10回	移動・移乗	演習内容 歩行器による移動 移動・移乗・姿勢保持の工夫	外部講師 演習 (実習室)	事前：演習に必要な準備をすること 事後：演習の振り返りを行う
第11回	清潔と更衣	- 在宅療養の場における清潔と更衣の特徴 - 清潔ケアと更衣のアセスメントと援助の実際	外部講師	事前：講義内容のところを読み学習しておく
第12回 第13回	清潔援助	演習内容 在宅での洗髪 ▶ 自宅にある道具を使って作成したケリーパッドを使って洗髪を体験する ▶ 自宅にある道具を使って作成した道具で足浴を体験する	外部講師 演習 (実習室)	事前：演習に必要な準備をすること 事後：演習の振り返りを行う
第14回	在宅療養における創意工夫	- 在宅療養をする療養者に必要な自助具の作成(制作物) - それぞれ発表する	外部講師 個人ワーク	事前：制作に必要な準備をすること
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
各講義に対して、予習、復習を行い、学習を深めてください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 15時間	
科目名						科目種類		担当教員	
在宅での看護実践プロセス						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
在宅看護は、多様な疾患や障がい療養しているあらゆる健康段階・発達段階、様々な治療・処置を受けている人々に対応していきます。在宅で看護を展開するにあたっては、療養者と家族が生活する上で、療養者の生命活動、生活活動、社会活動のどこに活動制限が生じているのかを見極めることが必要であり、様々な状況に対応できる能力が必要となります。									
ここでは、在宅療養者を看護する上で必要となるアセスメントの視点を理解し、対象の健康問題を捉え、その人に必要な看護および支援について考えることを目的としています。									
到達目標									
1. 在宅看護過程での5つのアセスメントの視点が具体的に述べられる									
2. 学んだ在宅看護過程を使用し事例展開ができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、チーム医療、社会福祉、看護実践のプロセス、地域・在宅看護論入門、在宅療養を支える看護、生活を支える在宅援助技術、地域での暮らしを支える看護、家族看護論			
◎	◎	◎	◎						
教科書・参考図書									
地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社									
専門分野 地域・在宅看護論【2】 地域・在宅看護の実践 医学書院									
秋山正子 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 在宅看護過程とは	・授業の概要と目標、授業の進め方と評価について説明 ・病院での看護過程との違い ・在宅看護過程の特徴 ・ICFについて				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	在宅看護過程の構成	・在宅看護手の基本的な情報収集 ・在宅看護のアセスメントの視点 ・目標の設定のポイント ・在宅看護での計画 ・実施と評価				専任教員	事前：アセスメントの視点を読んでくる 事後：事例を読んでくる		
第3回	事例展開①	・情報収集 ▶いつ、どこから、どのような情報を何故収集するか考える				専任教員 GW	事前：情報収集について教科書を読んでくる 事後：情報収集した内容を記録用紙へ記載する		
第4回	事例展開②	・アセスメント ▶アセスメントを5つの視点で行う				専任教員 個人ワーク	事後：アセスメントを実施する		
第5回	事例展開③	・アセスメントのすり合わせ ▶他者の発表を聞きアセスメントを深める ・情報関連図の作成				専任教員 GW 個人ワーク	事後：アセスメントの実施と修正、情報関連図の作成		
第6回	事例展開④	・支援計画の立案				専任教員 個人ワーク	事後：支援計画の作成		
第7回	事例展開⑤ 支援計画の共有	・他職種と連携する支援内容の検討 ・支援計画をグループ毎発表し、共有を行う				専任教員 GW			
第8回	筆記試験	・まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
事例展開をしていきます。授業時間内では完成しませんので計画的に自己学習の時間を設定し、次の講義までには完成しているように取り組みましょう。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
地域での暮らしを支える看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
健康な人は健康の保持・増進、疾患や障がいをもっている人もその人らしく地域で暮らすために様々な職種が連携および協働して支援していく必要があります。慣れ親しんだ地域で生活するためにも地域包括支援は重要な役割を担っています。 ここでは、看護の対象者が生き活きと暮らしていけるよう行政の取り組みや様々な施設が実施している支援について学びます。また、看護学生として、どのような支援ができるか検討していく中で、対象者への支援について理解を深めていくことを目的としています。									
到達目標									
1. 地域包括支援について具体的に説明できる 2. それぞれの施設の役割と取り組みについて述べられる 3. 地域住民への支援について調査結果をもとに資源マップを作成できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	人間関係論、地域をつくる人間関係、チーム医療、社会福祉、公衆衛生学、地域・在宅看護入門、在宅療養を支える看護、生活を支える在宅援助技術、在宅での看護実践プロセス、家族看護論			
◎	◎	◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 専門分野 地域・在宅看護論【1】 地域・在宅看護の基礎 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 地域で暮らす人を支えるとは	・授業概要と目標、授業の進め方と評価についての説明 ・地域とは何か ・地域に暮らしている人々とは ・地域で暮らす人々をささえるために必要なこと				専任教員	事前：シラバスの内容を確認してくる 主題について、自分の考えをまとめる		
第2回	地域包括支援①	・地域包括支援とは ▶地域包括支援センターの役割と活動				外部講師	事前：地域包括支援について予習する		
第3回	地域包括支援②	・地域における関係機関との連携および支援活動 ▶地域ケア会議				外部講師	事後：地域包括ケアについて整理する		
第4回	健康センター	・健康センターの役割 ・保健センターでの看護職の役割 ▶利用者の傾向 ▶利用後のサポート ・事例を用いて保健指導について考える				外部講師	事前：保健指導について予習する		
第5回	保健指導の発表	・グループ毎発表 ・全体で共有し理解を深める				専任教員	事前：発表の準備		
第6回	行政の取り組み①	・松本市健康づくりの取り組み ▶保健センターの役割 ▶活動内容 ・地域との連携、協働				外部講師	事前：保健センターについて予習する 事後：学びの整理をする		
第7回	行政の取り組み②	・松本市地域づくりの取り組み ▶地域づくり課の役割 ▶活動内容				外部講師	事前：地域づくり課について予習する 事後：学びの整理をする		

第8回	地域医療①	• 地域の医療における現状と役割 ▶ 長野県の田舎で生じた老人の境遇の変化 ▶ 都市と農村 ▶ 老人と若者夫婦	外部講師	事前：地域医療について予習する
第9回	地域医療②	▶ 都会の大病院と田舎の国保診療所	外部講師	事後：学びの整理
第10回	地域医療③	▶ 老化現象と病気 ▶ 病院は治すものなのか ▶ 医者と看護師の関係	外部講師	事後：学びの整理
第11回	地域住民の生き活きを支える①	• 地域住民を支援する ▶ 地域包括ケア・医療介護資源マップの作成のための情報収集	専任教員 GW	事後：発表会に向けて準備
第12回	地域住民の生き活きを支える②	• 地域住民を支援する ▶ 地域包括ケア・医療介護資源マップの作成	専任教員 GW	事前：発表会に向けて準備
第13回	発表会	• グループ毎発表 ▶ 発表を聞いて、良かった点・改善点を伝える	専任教員 GW	事前：発表会に向けて準備
第14回	地域住民の生き活きを支える③	• 資源マップの修正	専任教員 GW	
第15回	科目試験	• まとめ		
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
地域で暮らす人々の生活や健康を様々な視点から支援をしている専門職の貴重な話を聞ける機会ですので積極的に参加しましょう。グループワークではマップを作成し地域へ配布に出向きます。自己の考えを積極的に発言していきましょう。また、マップの配布にあたり節度ある態度を心がけましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 前期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
家族看護論						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
家族の多様化が進んでいる今日、標準的な家族を基準として目の前の家族を捉えるのではなく、それぞれの家族を独自の存在として多面的に捉え、その家族の持つ力を見極め、力の発揮を支えること、そして健康的な家族生活が実現できるように援助することが求められています。									
ここでは家族看護の基本的な考え方、現代の家族の特徴、理論を活用した家族のとらえ方、家族との援助関係を形成しながら家族が力を発揮して健康的な家族生活を実現できるように看護援助を行う方法について理解を深めることを目的としています。									
到達目標									
1. 家族とは何か、家族という集団が持つ特徴が説明できる									
2. 家族看護が目指すことは何かを説明できる									
3. 事例検討を通し、家族への働きかけ方を考えることができる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	人間関係論、看護の本質			
○			○	○					
教科書・参考図書									
別巻 家族看護学 医学書院 鈴木和子他 家族看護学 理論と実践第5版 日本看護協会出版 山崎あけみ 家族看護学 19の臨床場面と8つの実践事例から考える 南江堂 中野綾美 家族看護論 家族のエンパワメントを支えるケア メディカ出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 家族とは何か①	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明 ・家族とは ▶DVD視聴				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する 家族についてのイメージを書き出す		
第2回	家族とは何か②	・DVDを見て家族について考える ▶家族の捉え方の変化を知る				専任教員	事後：自己の家族に対する捉え方の変化を可視化する		
第3回	家族の定義	・専門分野による家族の定義 ・看護における家族の定義				専任教員	事後：看護における家族定義を復習する		
第4回	家族は成長・変化する集団	・家族の成長発達 ▶家族周期的アプローチ ▶個々の発達段階における特徴				専任教員	事前：配布資料を読んでくる		
第5回	家族構造の変化と家族機能①	・家族構造 ▶家族のウチ・ソト ・家族機能 ▶フリードマン5つの家族機能 ▶家族機能についてまとめる				専任教員 GW	事後：学びの整理		
第6回	現代の家族①	・現代の家族とは ・現在家族の課題 ▶チームで現代家族の課題と対策をまとめる				専任教員	事後：発表会に向け準備する		
第7回	現代の家族②	・現代家族の課題と対策を発表				専任教員	事前：配布資料を読んでくる		

第8回	家族看護とは	- なぜ、家族を理解する必要があるか ▶ 看護の対象 ▶ 家族看護の定義、目的	専任教員	事後：学びの整理
第9回	家族を理解するための理論①	- 家族システム理論 - 家族看護エンパワメントモデル - エンパワメントとは	専任教員 個人ワーク	事前：配布資料を読んでくる 事後：学びの整理
第10回	家族への働きかけ	- 家族の病気体験が、及ぼす影響 - 家族の苦悩、情緒反応 - 家族のニーズを把握する視点	専任教員 GW	事後：学びの整理
第11回	家族のより良い生活、健康を支援①	- 家族との関係構築 ▶ パートナリシップの特徴	専任教員	事後：学びの整理
第12回	家族のより良い生活、健康を支援②	- 家族看護過程の活用 ▶ ジェノグラム、エコマップを書いてみる ▶ 事例検討①	専任教員	事前：どのような情報が必要か考える
第13回	家族のより良い生活、健康を支援③	- 事例検討② ▶ 問題は何？どう支援するか ▶ 強みの活かし方	専任教員	事後：家族看護過程の要点をまとめる
第14回	家族看護の目指すところ	- 家族とは何か - 家族をどのように支援していくか ▶ 家族支援の視点とは	専任教員	事前：今までの講義を復習し自己の意見を明確にする
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
講義で視聴するDVDの事例を自分の状況に照らし合わせてしまい、さまざまな感情が湧きおこるかもしれません。何かあれば相談にきてください。この科目は、他領域でも使える知識であるため、積極的に参加して学びを深めていきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
成人看護学入門						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
成人期は、人の一生の過程[ライフサイクル]の大半を占めます。成人期では、身体的には機能が最高点に達したあと徐々に衰退していき、心理的には未熟な段階から成熟した状態へ変化し、社会的には家庭や社会で重要な役割を担います。成人期を通じての心身や環境の変化は、ときにストレス要因となります。また成人期は、様々な健康問題が発生する時期でもあります。ここでは、成人期にある人を統合的に理解するうえで必要な考え方や個々の成人が自分の健康や生活を守るためのシステムや看護師の役割を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 成人期の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題の特徴について説明することができる									
2. 成人期に発生しやすい健康障害について説明することができる									
3. 成人期の健康を守るための保健・医療・福祉政策について説明することができる									
4. 成人期の看護で用いる概念・理論について理解を深め、看護師の役割について考えることができる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	健康と社会、生活行動からみるからだ、看護の本質			
◎					◎				
教科書・参考図書									
専門分野	成人看護学【1】		成人看護学総論		医学書院				
専門分野	基礎看護学【4】		臨床看護総論		医学書院				
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 成人とは	・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・成長・発達過程からみた成人の特徴 ▶ 大人とは ▶ 成人の発達段階 ▶ ライフサイクルからみた成人 ・成人の発達課題 ▶ エリクソン／ハヴィグースト				専任教員	事前：シラバスの内容を読む 事後：復習する		
第2回 第3回	成人の成長 発達	・成人の成長発達 ▶ 青年期/壮年期/向老期にある人の特徴 ▶ 青年期/壮年期/向老期にある人の健康上のニーズ				専任教員 GW	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：成人期の身体的・心理的・社会的な特徴をまとめる		
第4回	成人の健康 状況と健康 課題	・成人各期の健康状況と健康課題 ▶ 青年期/壮年期/向老期の健康問題 ：生活習慣に関する健康課題 ：職業に関する健康課題 ：ストレスに関する健康課題 (ストレスコーピング)				専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：復習する		
第5回	成人を取り 巻く社会環 境と生活の 状況	・成人を取り巻く環境 ▶ 人口・経済 ▶ 成人のライフスタイルの特徴 ・成人の生活 ▶ 生活を営むこと 働くこと ▶ 成人各期における生活の特徴 ▶ 家族との関係				専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：復習する		

第6回	保険・医療 ・福祉政策	• 成人を対象とした保険医療福祉政策 ▶ヘルスプロモーション ▶一次予防・二次予防・三次予防	専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：国家試験問題を解く
第7回	成人への看護 アプローチ	• 成人看護で用いられる概念・理論 ▶意思決定支援/IC ▶学習支援/アンドラゴジー/エンパワメント ▶危機理論 ▶病みの軌跡	専任教員 GW	事前：テキストの該当する範囲を読む 事後：復習する
第8回	筆記試験	• まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
調べ学習やグループワークに主体的に取り組み、積極的に発信していきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
成人期の命を守る看護						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
成人期の命を守る看護では、健康状態の急激な変化があり、生体がその変化に対応するために様々な反応を起こしている対象への看護を学びます。急性期にある対象、特に周手術期においては手術という新たな侵襲による生体への影響は大きく、そのため緻密な観察と適切な対処、正確な医療処置の実施、心理的安定を促し生命維持への看護が要求されます。手術による心身への影響を考え合併症予防に向けた観察の視点、早期回復を促す関与を学びます。また、急性期疾患は突然であることから家族への支援及び患者の家庭生活、社会生活を理解し、新たな療養行動が獲得できるための看護を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 急性の状態にある患者の特徴を踏まえ生命の維持と早期回復に向けての基本的な考え方を述べることができる 2. 急性の状態にある患者や家族の心理、精神的支援について具体例を挙げられる 3. 急性循環不全の状態にある患者の生命維持から早期回復に向けた看護を述べることができる 4. 手術侵襲や麻酔による影響について理解し、手術前・手術中・手術後の看護について述べることができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活の基本、倫理学、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅰ、臨床検査、臨床薬理学、病気の発生とメカニズム、栄養と健康、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術、検査・処置援助技術、臨床看護総論			
◎	◎	◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【4】 臨床看護総論 医学書院 別巻 がん看護学 医学書院 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 別巻 臨床外科看護各論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	授業ガイダンス 急性期看護の概論		・授業の概要と目標授業の進め方、担当講師や評価について説明 ・急性期看護概要 ▶急性期にある患者と家族の特徴 急性期における看護の基本 急性期医療や急性期看護における倫理			専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	救急看護①		・生命の危機にある患者の特徴 ・クリティカルケア ▶緊急度と重症度のアセスメント ・心肺停止状態への対応 ▶BLS／ALS ・重症熱傷の応急処置			外部講師	事後：国試の過去問題を解く		
第3回	救急看護②		・心肺蘇生の実際 病棟での急変対応 ・救急カート ・除細動器の使用法			外部講師 演習 (実習室)	事前：心肺蘇生の事前学習 事後：演習の振り返り		
第4回	周術期看護 手術侵襲		・周術期看護の概要 ▶周術期看護の基本 周術期にある患者・家族の特徴 ・手術療法による生体侵襲と生体反応 ▶手術療法の目的と種類 手術侵襲と生体反応			専任教員 動画視聴	事後：全身麻酔による開腹手術の病態関連図を作成する		

第5回	手術室の環境 手術室看護	- 手術室の環境 滅菌管理 - 手術室看護の役割 - 術前/術後訪問 ▶ 術前オリエンテーション 意思決定への援助	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第6回	術中の看護	- 麻酔の種類と特徴 ▶ 全身麻酔/局所麻酔 - 術中看護の役割 - 術式・体位・麻酔による影響と援助 - 安全管理	外部講師	事後：国試の過去問題を解く
第7回	病棟の術前・術後の看護	- 病棟の術前/術後看護 ▶ 術後合併症のメカニズム 術後合併症の予防の看護 ボディーイメージ変容への看護	外部講師	事後：国試の過去問題を解く
第8回	ストマを造設した患者の看護	- 人工肛門造設術 ▶ 合併症 - 術後の看護	外部講師	事後：国試の過去問題を解く
第9回	開腹手術を受ける患者の看護① (腹腔鏡下手術)	- 開腹手術の特徴 - 大腸がんで手術を受ける患者の看護 ▶ 大腸がん病態 ▶ 術後合併症のリスクアセスメント - 内視鏡下手術の特徴 ▶ 腹腔鏡手術の特徴 術後の看護 - 消化管造影検査	専任教員 GW	事前：大腸がん患者の看護の事前学習 事後：国試の過去問題を解く
第10回	開腹手術を受ける患者の看護②	術後の看護計画の理解	専任教員 GW	事前：標準看護計画の予習をする
第11回	開腹手術を受ける患者の看護③	- 術後1日目の看護の実施 ▶ 観察 初回歩行時の援助 清拭	専任教員 演習 (実習室)	事後：演習の振り返り
第12回	開腹手術を受ける患者の看護④	- 退院支援 ▶ 退院に向けた指導・支援の目的と方法 大腸がん患者の退院支援	専任教員 GW	事前：大腸切除後の生活について事前学習をする
第13回	胸腔鏡下手術を受ける患者の看護	- 胸腔鏡下手術の特徴 - 肺がんで胸腔鏡下肺切除術を受ける患者の看護 ▶ 肺がんの病態 術後の看護 胸腔ドレナージの管理	専任教員	事例：肺切除術を受ける患者の看護の事前学習をする
第14回	開胸手術を受ける患者の看護	- 開胸心臓手術の特徴 - 心筋梗塞で開胸手術を受ける患者の看護 ▶ CABG 術後の看護 心臓リハビリテーション	専任教員	事前：急性心筋梗塞、狭心症患者の看護の事前学習をする 事後：国試の過去問題を解く
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
予習、復習をして講義に臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 15時間	
科目名						科目種類		担当教員	
成人期の生活を支える看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
成人期の生活を支える看護では、疾患や障害を持ちながら「生活する人」として対象を捉え、「その人がその人らしく生きる」を家族とともに考え、QOLを高めるための看護を学びます。回復期にある対象は、生体の恒常性や安定性を維持し、その人が本来持つ自然治癒力や、闘病意欲を引き出して合併症を予防しながら社会復帰することへの支援が必要となります。さらに、対象や家族への問題解決には直接的援助だけではなく、様々な職種の専門的な支援が必要とされるため、社会生活再構築へのチーム医療を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 回復期・リハビリテーション期にある対象の特徴とその看護について述べることができる 2. 機能障害を持つ対象者のセルフケア再獲得への看護が具体的に述べることができる 3. 生活機能障害に伴う心理的葛藤や障害受容への精神的支援について具体的に述べることができる 4. リハビリテーション医療に携わる看護師の役割を述べることができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活の基本、看護形態機能学Ⅱ、看護病態論Ⅳ、臨床検査、臨床薬理学、チーム医療、栄養と健康、看護の本質、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術、臨床看護総論			
◎	◎	◎	◎						
教科書・参考図書									
別巻 リハビリテーション看護 医学書院 専門分野 成人看護学【7】 脳・神経 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス リハビリテーションとは 障がいを負うという体験	・授業の概要と目標、授業の進め方、担当講師や評価について説明 ・リハビリテーションの概念と歴史 ▶ リハビリテーションの定義 機能障害と分類 生活機能分類(ICF) ・障がいをもつ当事者の体験を理解する [動画視聴] ・障がいをもつ当事者のとらえ方と援助アプローチ				外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：動画をみた感想を書く		
第2回	リハビリテーションにおける看護の役割	・リハビリテーション看護の独自性 ・リハビリテーション領域における基本理論 ・アセスメントのための評価ツール ▶ 生活機能障害と日常生活動作 住居環境				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く		
第3回	生活行動の再獲得	・中途障がいと生活の再構築 ・廃用症候群の予防 ・生活の自立度を高める訓練 ▶ ADL・活動範囲の拡大に向けた援助 補助具・自助具の活用 心理的葛藤への援助				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く		

第4回	チームアプローチ 障がいのある人のための福祉施策	・チームアプローチの必要性 ▶ 他職種連携 ・QOL向上を目指す施策 ▶ ノーマライゼーション／バリアフリーユニバーサルデザインなど ・雇用対策 ▶ 就労条件・環境の調整 社会参加を促す要素と阻害要因 ・障害関連法と福祉施策 ▶ 社会資源の活用 障害者基本法／障害者総合支援法 障害者手帳の交付	外部講師 GW	事前：教科書の該当範囲を読む ・GWで福祉施策に関する調べ学習をする 事後：国試の過去問題を解く
第5回	脳・神経機能障害のある患者の看護(1)	・脳・神経機能障害の原因と障害の程度のアセスメント ▶ 意識障害／運動・感覚機能障害 言語機能障害／高次脳機能障害 ▶ 生命・生活への影響	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第6回	脳・神経機能障害のある患者の看護(2)	・検査、治療を受ける患者の看護 ▶ 脳波検査／脳血管造影／画像検査(CT、MRI) ・病期や機能障害に応じた看護 ▶ 脳血管障害／脳腫瘍／頭部外傷 [事例学習] ・脳梗塞患者の看護	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第7回	脳・神経機能障害のある患者の看護(3)	[演習] ・脳梗塞患者への看護の実際 ▶ JCS・GCSの観察 更衣・トイレ介助 半側空間無視の体験	外部講師 演習 (実習室)	事後：演習の振り返り
第8回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
予習、復習をして講義に臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
成人期の健康を支える看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
成人期の健康を支える看護では、健康な人や慢性疾患を患う人が、より健康な生活を送るための支援を学びます。健康レベルを維持し、自身のもてる力を活用するためには生活全体の再調整およびセルフケアの再獲得が必要になります。看護としては、対象が自らの健康を保持増進できるよう、セルフマネジメントへの支援が必要になります。ここでは、生活習慣病を予防して健康を高める具体的方法を学ぶこと、健康障害が完全に治癒できず長期的に経過している対象とその家族に対して、症状のコントロールや合併症予防のための自己管理や継続治療ができるための看護について学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 生活習慣病を予防する具体的方法を述べることができる 2. 慢性期にある対象の特徴とその看護について述べることができる 3. 慢性疾患を持つ対象者のセルフマネジメントへの看護が具体的に述べることができる 4. 長期的な治療が必要なことに対し、疾患別の支援を具体的に述べることができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活の基本、看護形態機能学Ⅰ、看護病態論Ⅰ～Ⅲ、臨床検査、臨床薬理学、病気の発生とメカニズム、栄養と健康、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術、検査・処置援助技術、臨床看護総論			
◎	◎	◎			◎				
教科書・参考図書									
専門分野	成人看護学【1】		成人看護学総論 医学書院						
専門分野	基礎看護学【1】		看護学概論 医学書院						
専門分野	成人看護学【2】		呼吸器 医学書院						
専門分野	基礎看護学【3】		基礎看護技術Ⅱ 医学書院						
専門分野	成人看護学【3】		循環器 医学書院						
専門分野	基礎看護学【4】		臨床看護総論 医学書院						
専門分野	成人看護学【4】		血液・造血器 医学書院						
専門分野	成人看護学【5】		消化器 医学書院						
専門分野	成人看護学【6】		内分泌・代謝 医学書院						
専門分野	成人看護学【7】		脳・神経 医学書院						
専門分野	成人看護学【8】		腎・泌尿器成人 医学書院						
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	慢性期患者の看護	・慢性疾患の特徴と動向 ・慢性疾患とともに生きる患者と家族の特徴 ・慢性期看護の役割・機能・場 ▶外来医療／入退院支援／他職種連携 社会資源の活用／治療選択、意思決定への支援				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の問題を解く		
第2回	糖尿病患者の看護	・糖尿病の病態と症状 ・検査と治療 ▶糖負荷試験／血糖自己測定 インスリン補充療法／経口薬治療 食事療法／運動療法 ・セルフマネジメントへの支援				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く		
第3回	看護過程①	事例を用いた看護展開の演習 データの種類の 情報収集の方法 情報収集の枠組み				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第4回	看護過程②	事例を用いた看護展開の演習 データの種類の 情報収集の方法 情報し収集の枠組み				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する		

第5回	看護過程③	看護計画の立案 看護計画の優先順位 RUNBAの法則	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む
第6回	看護過程④	看護展開 SOAPの記載 アセスメントの視点	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む
第7回	看護展開の 演習⑤	看護展開の演習 事例患者の看護の実際	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む
第8回	がん患者の 看護①	- がん患者の社会参加への支援 ▶ 就労継続／社会参加を促す要素と阻害要因／社会資源の活用 - がん患者の家族の特徴 ▶ 家族が直面する課題／家族への支援	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第9回	がん患者の 看護②	- がん患者の身体的苦痛と心理的苦痛 ▶ 緩和ケア／がんの疼痛コントロール - がん患者の治療と看護	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第10回	がん患者の 看護③	- 急性白血病の病態と症状 - 検査と治療 ▶ 血液検査／骨髄穿刺／造血幹細胞移植 輸血療法／化学療法／ステロイド療法 - セルフマネジメントへの支援 ▶ 感染予防など	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第11回	虚血性心疾患 不整脈患者 の看護	- 狭心症／心筋梗塞の病態と症状 - 検査と治療 ▶ 心電図／カテーテル治療／薬物療法 - 不整脈の病態と症状 - 検査と治療 ▶ 心電図／ホルター心電図／薬物療法 PM・ICD／カテーテル治療 - セルフマネジメントへの支援	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第12回	心不全患者 の看護	- 心不全の病態と症状 - 検査と治療 ▶ 超音波検査／胸部エックス線検査 薬物療法／P C I／人工臓器 - セルフマネジメントへの支援	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第13回	肝硬変患者 の看護	- 肝硬変の病態と症状 - 検査と治療 ▶ 腹部超音波／肝生検／腹腔鏡検査 血液検査／抗ウイルス療法 - セルフマネジメントへの支援	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第14回	慢性腎不全 患者の看護	- 慢性腎不全の病態と症状 - 検査と治療 ▶ 腎機能検査(尿・血液) 透析療法／食事療法／腎移植 - セルフマネジメントへの支援	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：国試の過去問題を解く
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
予習、復習をして講義に臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						3年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
臨床判断能力						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
臨床判断能力では、目の前にいる患者の状態から必要な看護を具体的に学びます。科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を行うための基礎的能力が必要になります。看護師は患者のところに行く際、頭の中である程度患者の状態を「予期」し、実際の患者をみて、その初期把握したことの確認(気づき)をします。気づきをもとに、過去の経験や知識・直感などからどのように看護を行えば良いかを考え(解釈)、行為にうつす(反応する)と言われてしています。そのため看護師は患者の状態に気づく力を高める必要があります。ここでは、実際の看護実践の状況を観て、気づいたこと、その解釈を表現します。①気づく、②解釈する、③反応する、④省察する(リフレクション)を言語化することで、他者がどのように看護を考えるのか知ることができます。また、自己の思考過程の再確認にもつながります。「なんとなくの違和感」を見逃さず、なぜそう思ったのかを言語化することで、看護の質の向上につながることを目的としています。									
到達目標									
1. 事象に対する気づきを言語化できる 2. 省察を言語化し、自己の思考過程を述べるができる 3. 患者の状態変化に応じた行動を考え、実施することができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、栄養と健康、病気の発生とメカニズム、看護病態論Ⅰ～Ⅴ、臨床看護総論、看護の本質、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術、検査・処置援助技術、看護実践のプロセス、成人期の命を守る看護、エンドオブライフケア			
◎	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【4】 臨床看護総論 医学書院 参考図書 三浦友理子、奥裕美：臨床判断ティーチングメソッド 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 臨床判断能力とは	・授業の概要と目標、授業の進め方や評価についての説明 ・臨床判断能力とは				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	進め方	・オリエンテーション				専任教員			
第3回 第4回 第5回	呼吸循環状態の観察	・不整脈 ・心不全 ・呼吸困難				専任教員 GW (実習室)			
第6回 第7回 第8回	胃がんで胃切除後患者の看護	・術後合併症 ・感染 ・イレウス				専任教員 GW (実習室)			
第9回 第10回 第11回	セルフマネジメント支援	・慢性腎不全 ・糖尿病 ・透析療法				専任教員 GW (実習室)			
第12回 第13回 第14回	長期臥床患者の看護	・パーキンソン病 ・認知症 ・褥瘡				専任教員 GW (実習室)			
第15回	筆記試験	・まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
予習、復習をして講義に臨んでください。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 15時間	
科目名						科目種類		担当教員	
セルフマネジメント論						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
人は自らの意思で選択し生活を送っています。その行動が健康に影響を及ぼすこともしばしばあります。セルフマネジメントとは、予防的および治療的なヘルスケア活動で、健康課題の問題解決アプローチを用いて対処し、自己効力感を高めながら主体的に取り組むプロセスであると言われています。人はより健康に生きてゆくために自己管理することができる存在です。慢性疾患のある人には、健康レベルを維持し潜在する能力を活用していくために、治療やセルフケアを生活の中に取り込み、生活全体の再調整が必要となります。人が自らの健康を保持増進できるよう、主体的なセルフマネジメント行動を支える看護を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 自己の健康レベルを維持・向上するための行動が具体的に考え実施できる 2. 成人期の生活習慣に関する健康課題について述べるができる 3. 健康行動に必要な理論の特徴が述べられる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	考える力、生活の基本、健康と社会、生活行動からみるからだ、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、栄養と健康、公衆衛生学、社会福祉、成人看護学入門			
◎		◎			◎				
教科書・参考図書									
小松 浩子 他：成人看護学【1】成人看護学概論 茂野 香おる 他：基礎看護学【1】基礎看護技術Ⅰ									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス ヘルスプロモーション	・授業の概要と目標、授業の進め方、担当講師や評価について説明 ・セルフケアとセルフマネジメント ・ヘルスプロモーションの考え方 ▶ 基本的命題、国際的動向、健康政策 ▶ 対象と場 ▶ 看護				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	健康生活におけるヘルスプロモーション	・生活習慣におけるヘルスプロモーション ▶ 栄養・食生活、運動、活動・休息、排泄、清潔、歯・口腔 ・健康生活におけるヘルスプロモーション ・健康課題におけるヘルスプロモーション ・30日チャレンジ計画を立案する				専任教員	事前：テキストの該当範囲を読む 事後：30日チャレンジを実施		
第3回	健康行動に必要な理論	・健康行動理論 ▶ 健康信念モデル、変化のステージモデル、計画的行動理論、自己効力理論 ・ストレスと対処 ・エンパワメントモデル				専任教員	事前：プリント資料を読む 事後：自己の健康を向上させる 具体策を立てる		
第4回	セルフマネジメントとは	・セルフマネジメント支援の構成要素 ・セルフマネジメントのための対象理解 ▶ 本人と病気の位置関係モデル ▶ 援助方法 ▶ 評価の仕方				専任教員	事後：演習の振り返り		
第5回	学習支援	・学習が成立する形 ・看護師としての権限としての学習支援 ・その人自身が持つ能力に焦点を当てた学習支援				専任教員	事後：演習の振り返り		

第6回	セルフマネジメント支援の 実際(1)	・事例にもとづいて病いを患う人のセルフマネジメント支援を考える (Ⅱ型糖尿病患者への食事指導)	専任教員 個人ワーク	事前：糖尿病について事前学習 事後：課題を完成させる
第7回	セルフマネジメント支援の 実際(2)	・事例にもとづいて病いを患う人のセルフマネジメント支援を実施する (Ⅱ型糖尿病患者への食事指導)	専任教員 GW 演習	事後：演習の振り返り
第8回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
「成人看護学入門」の授業内容を復習しておいてください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
老年看護学入門						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
老年期は人間の円熟から、最終段階の死へ向かう時期です。老年期にある人々及びその家族を統合的に理解するためには、その人の生きてきた過程及び加齢現象による生活への影響を理解する必要があります。 ここでは、高齢者の生活歴を踏まえ、個人の強み・潜在能力を活かした自己決定や援助の大切さを学びます。その為に、看護対象である高齢者の身体的・精神的・社会的特徴及び発達課題について学び、単に高齢者を衰退していく存在と捉えるのではなく、最後まで成長発達していく存在であると理解し、老年看護の役割を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 加齢に伴う高齢者の身体的・精神的・社会的変化と生活への影響を説明できる 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向と課題を説明できる 3. 高齢者の尊厳と権利擁護の考え方や高齢者のもてる力を引き出す老年看護の基本を理解する									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	共通看護技術、人間関係論、倫理学			
◎	◎								
教科書・参考図書									
系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院 根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 高齢者の理解 ①	・授業の概要と目標、授業の進め方についての説明、担当講師や評価についての説明 ・「老いる」ということ ▶ 老年期の発達・変化 ▶ 生活史を通じた理解				専任教員 講義	事前：シラバスを事前に確認する 事後：本日の講義内容を復習する		
第2回	高齢者の理解 ②	・高齢者の生活と家族 ▶ 高齢者の身体的・精神的特徴 ▶ 高齢者と家族の状況 ▶ 高齢者の発達課題、社会参加				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第3回	高齢者の健康 ①	・身体機能の加齢性変化と日常生活への影響 ▶ 呼吸・循環機能の老化 ▶ 消化・吸収・代謝機能の老化 ▶ 排泄機能の老化 ▶ 運動機能の老化				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：高齢者疑似体験に向け本日の講義内容を復習する		
第4回	高齢者の健康 ②	・認知・心理機能の加齢性変化と日常生活への影響 ▶ 脳の老化 ▶ 感覚機能の老化 ▶ 抑うつ				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：高齢者疑似体験に向け本日の講義内容を復習する		
第5回	高齢者疑似体験	・加齢性変化と日常生活への影響を理解するための体験的学習				専任教員 演習 校内・実習室	事前：事前学習のレポート 事後：体験レポート		

第6回	高齢者を取りまく社会	• 高齢者の健康・生活を支える制度と施策 ▶ 介護保険制度 ▶ 成年後見制度 ▶ 日常生活自立支援事業 ▶ 地域ケアシステム • 高齢者社会の権利擁護と倫理的課題	専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第7回	高齢者を支える看護	• 老年看護に用いられる理論・概念 ▶ サクセスフルエイジングとプロダクティブエイジング ▶ ストレNGTHス、エンパワメント ▶ コンフォート理論	専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第8回	筆記試験	• まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
事前に調べたものは忘れずに持参してください グループ学習では、一人一人が積極的に意見を出し合って主体的に学習をしてください				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
老年期の命を守る看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
多くの高齢者は複数の疾患をあわせもち、個体差が大きく、病状や治療効果は非定型的に経過するという特徴があります。老年看護では高齢者ゆえのリスクを持った人々を対象とし、その個々人が生命とその人らしい生活を維持することを目指します。 ここでは、加齢現象に伴い高齢者に多くみられる健康障害の特徴を学び、個別性に応じた具体的な看護について理解することを目的としています。									
到達目標									
1. 加齢や健康障害により生じる高齢者特有の複雑な健康問題について説明できる									
2. 加齢や健康障害が高齢者の日常生活に及ぼす影響と個別性に応じた援助方法が説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	疾病論Ⅰ～Ⅴ、臨床看護総論、臨床薬理学、成人期の命を守る看護			
◎	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門分野 老年看護学 医学書院									
専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院									
看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	ガイダンス 高齢者の健康と疾患や症状の特徴	・授業の概要と目標、授業の進め方、担当講師や評価についての説明 ・老年期の健康 ・生理的老化と病的老化 ・高齢者の疾患と症状の特徴				専任教員 講義	事前：シラバスを事前に確認する 事後：本日の講義内容を復習する		
第2回	治療を受ける高齢者の看護①	・高齢者に対する薬物療法 ・高齢者に対する服薬管理				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第3回	治療を受ける高齢者の看護②	・高齢者のリハビリと看護				専任教員 講義	事前：発表ができるよう準備する 事後：本日の発表内容を復習する		
第4回	高齢者特有の症状と看護①	・めまいと看護 ・脱水と看護 ・熱中症と看護				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第5回	高齢者特有の症状と看護②	・かゆみと看護 ・褥瘡と看護				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第6回	高齢者特有の症状と看護③	・低栄養と看護 ・フレイル、ロコモ、サルコペニアと看護				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第7回	高齢者特有の疾患と看護①	・脳・神経疾患と看護 ▶ 慢性硬膜下血腫 ▶ パーキンソン病				外部講師 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		

第8回 第9回 第10回	高齢者特有の疾患と看護②～④	- 呼吸器疾患と看護 ▶ COPD急性増悪で入院した高齢患者の看護	専任教員 講義 演習	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する 演習(事例のアセスメント)レポート
第11回 第12回	高齢者特有の疾患と看護⑤⑥	- 感覚器疾患と看護 ▶ 緑内障、白内障、糖尿病網膜症、難聴、味覚障害、加齢黄斑変性症 ▶ 診察・検査時の看護 ▶ 入院・退院時の看護	外部講師	事前：発表準備 事後：本日の講義内容を復習する
第13回 第14回	高齢者特有の疾患と看護⑦⑧	- 運動器疾患と看護 ▶ 大腿骨頸部骨折で入院した高齢患者の看護	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
関連性のある講義資料を活用してください				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
老年期の生活を支える看護						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
加齢に伴う諸機能の低下は、これまで培ってきた高齢者の生活に少なからず影響をもたらし、健康状態を悪化させます。 ここでは、多様な場で生活する高齢者の生活機能のアセスメントと、高齢者が目指しうる最大限の生活機能の回復に焦点を当てた援助方法を理解することを目的とします。 また、認知症の特性を理解し、認知症の人とその家族の健康と尊厳ある生活を支えるための援助について学習します。									
到達目標									
1. 高齢者の生活機能のアセスメントと具体的な援助方法について説明できる 2. 認知機能が低下した高齢者がその人らしく暮らし続けるための支援について説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	在宅看護論入門、社会福祉、清潔援助技術、老年看護学入門、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術			
○	○	○	○						
教科書・参考図書									
専門分野 老年看護学 医学書院 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	ガイダンス 高齢者の生活機能とその評価	・授業の概要と目標、授業の進め方や評価についての説明 ・高齢者総合機能評価(CGA)				専任教員 講義	事前：シラバスを事前に確認する 事後：本日の講義内容を復習する		
第2回	高齢者の生活を支える看護①	・コミュニケーションの援助 ・基本動作の援助				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第3回	高齢者の生活を支える看護②	・転倒転落予防の援助 ・睡眠・休息の援助				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第4回	高齢者の生活を支える看護③	・排泄の援助 ・食事の援助				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第5回	高齢者の生活を支える看護④	・清潔・整容の援助 ・環境整備				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		
第6回	高齢者の生活を支える看護⑤	・皮膚脆弱性のある高齢者への清潔ケア ▶陰部の保清、おむつ交換				専任教員 実習室 GW演習	事前：演習課題の復習 事後：演習課題の振り返り		
第7回	高齢者の生活を支える看護⑥	・セクシュアリティを考慮した援助 ・社会参加を促す援助				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する		

第8回	多様な生活 の場で展開 する高齢者 への看護①	・高齢者のヘルスプロモーション	専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第9回	多様な生活 の場で展開 する高齢者 への看護②	・在宅・施設における看護 ▶地域包括ケアシステムと看護の役割 ▶地域密着型サービス、居宅サービスを利用する 高齢者の暮らしと看護	専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第10回	認知症と看護①	・認知症高齢者の理解 ▶病態、症状、治療	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第11回	認知症と看護②	・認知症高齢者の看護 ▶コミュニケーション ▶パーソンセンタードケア ▶ユマニチュード	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第12回	認知症と看護③	・認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム ・認知症予防のための援助	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第13回	認知症と看護④	・認知症に合併する症状とケア ▶うつ	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第14回	認知症と看護⑤	・認知症に合併する症状とケア ▶せん妄	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容を復習する
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
グループ学習や演習は主体的にすすめてください 事前課題は忘れずに持参してください				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
エンドオブライフケア						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
我が国はこれまでにないスピードで多死社会を迎えようとしています。医療機関や高齢者施設、在宅においても認知症や様々な疾患を持つ高齢者がどのように最期を迎えるのか、誰がどのように支援していくのかが大きな課題になっています。ここでは、エンド・オブ・ライフにおける患者とその家族のQOLの維持向上のための援助の基盤となる考え方・基本的な知識・技術を学ぶことを目的とします。 また、死を通して自己をみつめ、どう生きていくのかを考える機会にします。									
到達目標									
1. エンドオブライフケアを受ける対象の特徴について説明できる 2. エンドオブライフケアを受ける対象の苦痛の緩和・QOLを高めるための看護が述べられる 3. エンドオブライフケアを受ける対象の家族の心理・精神的な側面の支援が述べられる 4. エンドオブライフケアに携わる看護師の役割について述べられる自己の死をみつめ、人として看護師としてどのように生きていくか考えを述べられる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	倫理学、心理学、人間関係論、暮らしと法、生活行動からみるからだ、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、栄養と健康、病気の発生とメカニズム、看護病態論Ⅰ～Ⅴ、臨床薬理学、治療を支える援助技術、臨床看護総論、小児看護学入門、成人看護学入門、老年看護学入門、母性看護学入門、家族看護論			
◎	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門分野 基礎看護学【4】臨床看護総論 医学書院									
別巻 緩和ケア 医学書院									
別巻 看護倫理 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス エンドオブライフケアの概要	・授業の概要と学習目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・緩和ケアと類似する言葉の整理				専任教員 講義	事前：シラバスを事前に確認する 事後：本日の講義内容の復習を行う		
第2回	生命倫理①	・生命倫理の4原則 ・安楽死・尊厳死・延命治療 ・グループごとディベートの準備				専任教員 講義 GW	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容の復習を行う		
第3回	生命倫理②	・安楽死についてのディベート				ディベート	事前：資料準備 事後：振り返り		
第4回	緩和ケア	・緩和ケアの理念 ・緩和ケアにおける看護師の役割 ・トータルペイン				外部講師 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容の復習を行う		
第5回	グリーフケア	・グリーフケアの段階 ・グリーフケアの実際 ・デスカンファレンス				外部講師 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容の復習を行う		
第6回	患者・家族とのコミュニケーション	・事例から考えるコミュニケーション				専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：振り返り		

第7回	補完代替療法	- 補完代替療養の目的・意義 - 種類 - リラクセーション、アロマセラピー、タクティールなど	専任教員 講義 演習 実習室	事前：手順書を読む 事後：演習の振り返り
第8回 第9回 第10回 第11回	事例で学ぶ エンドオブライフケア	- 病院で最後を迎えるまでの意思決定と調整 - 不安・悲嘆が強い家族の看護 - 介護施設で暮らす認知症患者の医療介入と終の棲家の選択支援	専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容の復習を行う
第12回	臨死期の看護	- 臨死期のケア - 臨終までの一般経過	専任教員 講義	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：本日の講義内容の復習を行う
第13回	エンゼルケア	エンゼルケア	専任教員 講義	事前：手順書を読む 事後：演習の振り返り
第14回	望む生き方を支える看護	- 望む生き方の実現を支える看護 - 事例から考える、意見交換	専任教員 GW	事後：レポート作成
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
事前に調べたものは忘れずに持参してください グループ学習では一人一人が積極的に意見を出し合って主体的にすすめてください				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
小児看護学入門						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
小児看護学は、胎生期から思春期までの幅広い発達段階を対象とした看護を学びます。小児期はその後に続く成人期以降の心身の基盤となる様々な機能の獲得時期でもあります。 ここではライフサイクルについて理解するとともに、小児期の発達区分ごとの特徴と、発達課題を理解するための知識を養います。また、小児医療における倫理と、こどもを取り巻く環境や社会制度についても学び、看護の役割と課題について理解する事を目的とします。									
到達目標									
1. 成長発達の原則について述べられる。 2. 小児医療における倫理的配慮について具体的に述べるができる。 3. 現代のこどもを取り巻く環境や健康問題について具体的に述べるができる。 4. グループワークを通し、協力して調べ学習を行い活発な意見交換ができる。									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	健康と社会、倫理学、看護の本質、家族看護論			
◎		◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社 専門分野 小児看護学【1】 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 中野綾美 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス ライフサイクル 小児保健と健康問題の動向	・授業の概要と目標、進め方と評価について説明 ・ライフサイクルと小児期の区分 ・小児保健と、小児を保護する法律や社会制度 ・小児医療の動向と小児看護における倫理 ・子どもの権利と倫理 ・子どもの健康問題の動向、子どもと家族の健康課題				専任教員 講義	事前：シラバスの内容を読んでおく 事後：子どもの権利と倫理について復習する		
第2回	成長発達の原則と各発達段階の特徴	・成長発達の一般的原則、成長発達の評価法 ・成長発達に影響する因子				専任教員 講義	事後：成長発達の評価の計算方法を復習する		
第3回	発達を学ぶ①	・グループワーク① ▶乳児期・幼児期の身体生理の特徴や心理・社会面について調べ学習しまとめる				専任教員 GW	事前：グループワークで担当する発達の部分を、教科書一読しておく		
第4回	発達を学ぶ②	・グループワーク② ▶子どもの発達段階ごとの身体生理の特徴や心理・社会面について共有する				専任教員 GW	事前：個別にグループワーク行に向けての準備を行う		
第5回	発達段階ごとの特徴①	・新生児期、乳児期の特徴について				専任教員 講義	事前：グループワークの資料で該当する部分を復習しておく		
第6回	発達段階ごとの特徴②	・幼児期、学童期、思春期の特徴について				専任教員 講義	事前：グループワークの資料で該当する部分を復習しておく		
第7回	発達理論	・子どもの成長発達に関わる理論 ▶エリクソン、ピアジェ、マラー、ボウルビィ				専任教員	事後：エリクソン、ピアジェの発達理論を復習する		
第8回	筆記試験	・まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
この科目ではグループワークがあります。それぞれが主体的に取り組み、グループでの学習目的・目標を達成できるように臨みましょう。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
こどもの健康と生活を支える看護						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
こどもが心身ともに健康であることは成長発達に大きく影響します。こどもの健康を支えるために、発達段階を踏まえた日常生活活動の特徴を理解し、健康な状態にある時の観察や支援の方法について学びます。さらに、看護の場面で必要となる日常生活援助技術を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 発達段階に合わせた日常生活援助技術の方法と留意点を述べることができる 2. 健康の状態に合わせた日常生活援助の方法と留意点を述べることができる 3. こどもの日常生活援助技術を安全に一部実施することができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術、清潔援助技術、フィジカルアセスメント、小児看護学入門			
◎	◎	◎	◎						
教科書・参考図書									
小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社 専門分野 小児看護学【1】 小児看護学概論 小児看護学総論 医学書院 中野綾美 ナーシンググラフィカ 小児看護学① メディカ出版 山元恵子 やさしくわかる小児看護技術 ナツメ社									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス こどもの健康状態の観察	・授業の概要と目標、進め方と評価について説明 ・こどもの健康観察の視点と方法 ・バイタルサイン測定の方法				専任教員	事前：シラバスの内容を読んでおく 一般的なバイタルサイン測定での留意点を見直しておく		
第2回	身体活動 睡眠と休息	・発達段階と日常生活パターン ・こどもにとっての睡眠と休息の意義				専任教員	事後：発達段階ごとの睡眠の特徴をまとめる		
第3回	栄養と食事 排泄	・発達段階ごとの栄養摂取の方法 ・食事行動とその支援 ・発達段階ごとの排泄行動と支援				専任教員	事後：発達段階ごとの摂食方法と排泄方法の特徴をまとめる		
第4回	清潔 衣服の着脱	・こどもにとっての清潔の意義と清潔行動の支援 ・清潔援助の種類 ・衣服の着脱行動と支援				専任教員	事後：発達段階ごとの清潔行動の特徴をまとめる		
第5回	言語の発達とコミュニケーション	・発達段階ごとのことばの発達とコミュニケーション方法 ・看護援助におけるコミュニケーションの工夫				専任教員	事後：発達段階ごとの言語獲得の特徴をまとめる		
第6回	遊びと事故防止	・発達段階ごとの遊びの特徴と起こりやすい事故 ・生活上の安全に対する支援				専任教員	事前：家庭の中で起こりやすい事故について調べておく		

第7回	日常生活援助技術①	- バイタルサイン測定 - 身体計測の方法 - 授乳、食事の援助	専任教員	事前：一般的なバイタルサイン測定、身体計測、授乳、食事の援助の手順書を作成し見直しておく
第8回	日常生活援助技術②	- 清潔援助（全身清拭）と更衣 - おむつ交換	専任教員	事前：一般的な全身清拭と更衣、オムツ交換の手順書を作成し見直しておく
第9回 第10回	演習① 日常生活援助技術	演習内容 - バイタルサイン測定の実際 - 身体計測の実際	専任教員 演習 (実習室)	事後：演習で行った技術の留意点をまとめる
第11回 第12回	演習② 日常生活援助技術	演習内容 - 全身清拭と更衣の援助の実際 - おむつ交換の実際	専任教員 演習 (実習室)	事後：演習で行った技術の留意点をまとめる
第13回	日常生活援助技術演習のまとめ	技術演習を通しての、子どもに対する日常生活援助の工夫と留意点についてまとめる	専任教員 GW	事前：第9回から12回の演習で工夫できたと考える点を書き込んでおく
第14回	全体のまとめ	あらゆる健康段階の子どもに対する観察、援助を行うための小児看護の基本を確認	専任教員	事後：技術演習で使用した手順書を完成させる
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
日常生活援助技術は、領域実習での看護実践に直結します。援助のポイントと留意点を確実に習得しましょう。また、こどもの日常生活援助は、生活上の安全を守ること含まれます。こどもを取り巻く環境もイメージしながら学習しましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
医療を必要とするこどもの看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
小児は日常生活の中で様々な体験を重ねて成長・発達をとげます。しかし、疾病や障がいのある小児は症状や治療による苦痛や制限を受け、それが成長・発達に影響することも少なくありません。また、家族にも悲しみや不安をもたらします。疾病の影響は小児の発達段階によっても異なります。 ここでは、疾病からおこる症状に対する小児特有の看護、健康段階や発達段階による特徴から、生命を守るために必要な看護について理解することを目的としています。									
到達目標									
1. 健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす影響を理解することができる									
2. 発達段階や健康段階に応じた看護について理解することができる									
3. 疾病や障がいのある小児と家族に対する看護を理解することができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査、臨床薬理学、チーム医療、共通看護技術、フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術、臨床看護総論、小児看護学入門、こどもの健康と生活を支える看護、家族看護論			
◎	◎		◎	◎					
教科書・参考図書									
小林京子 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社									
奈良間美保 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院									
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院									
中野綾美 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 メディカ出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 健康障害が小児と家族に与える影響と看護①	・授業の概要と目標、進め方、評価について ・病気に対する小児・家族の理解と説明 ・病気や入院が、小児と家族に及ぼす影響と看護 ・意思決定のための心理的支援技術				専任教員	事前：小児の成長発達段階ごとの身体・心理的特徴を復習しておく		
第2回	健康障害が小児と家族に与える影響と看護②	・活動制限、隔離が必要な小児とその家族への看護				専任教員	事後：講義資料と教科書の該当範囲を復習しておく		
第3回	健康障害が小児と家族に与える影響と看護③	・外来における小児と家族への看護 ・外来看護と地域連携、継続看護について				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読んでおく		
第4回	急性期にある小児と家族への看護①	・救急救命処置が必要な小児と家族への看護				専任教員	事後：講義資料と教科書の該当範囲を復習する		
第5回	急性症状のある小児の看護①	・症状のある小児の看護① ▶ 不機嫌、啼泣、発熱、痙攣、発疹				外部講師	事後：症状に対する小児特有の看護のポイントについてまとめる		
第6回	急性症状のある小児の看護②	・症状のある小児の看護② ▶ 悪心、嘔吐、下痢、便秘、脱水				外部講師	事後：症状に対する小児特有の看護のポイントについてまとめる		

第7回	急性症状のある小児の看護③	• 症状のある小児の看護③ ▶ 呼吸困難、チアノーゼ、痛み	外部講師	事後：症状に対する小児特有の看護のポイントについてまとめる
第8回	検査や処置を受ける小児と家族への看護	• 小児が受ける検査や処置の特徴と看護 ▶ 採血、採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読むしておく
第9回	小児看護に必要な技術	• 演習 ▶ 与薬、吸入、プレパレーション	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読むしておく
第10回	急性期にある小児と家族への看護②	• 周手術期にある小児と家族に対する看護	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読むしておく
第11回	出生直後から集中治療が必要な小児と家族への看護①	• ハイリスク新生児の特徴	専任教員	事前：正常な新生児の特徴を復習しておく
第12回	出生直後から集中治療が必要な小児と家族への看護②	• 低出生体重児の看護 ▶ ディベロップメンタルケア ▶ ファミリセンタードケア	専任教員	事後：低出生体重児の生理的特徴について復習する
第13回	慢性的な疾患・障害がある小児と家族への看護①	• 重症心身障がい児と家族への看護 • 医療的ケアを必要とする小児と家族への看護	専任教員	事後：医療的ケアのポイントについて復習する
	慢性的な疾患・障害がある小児と家族への看護②	• 医療的ケアを必要とする小児の在宅移行に向けた支援 ▶ 他職種連携、社会資源 ▶ 保育所、学校での支援 ▶ 小児のセルフケア行動の促進	専任教員	事前：小児の発達に応じたセルフケアについて復習しておく
第14回	小児看護のまとめ	• 小児看護のまとめ	専任教員	事後：筆記試験へ向けて講義資料、教科書の内容を整理する
第15回	筆記試験	• まとめ	担当教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
小児の療養生活を支える実習に直結する科目です。それぞれの単元に集中して取り組みましょう。また、事前・事後学習も必ず行いましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
小児総合援助論						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
小児の心身の健康には、社会(社会制度)・環境・人など様々な要因が影響しています。また、私達が暮らす地域でも小児や家族を支える取り組みが沢山行われています。 ここでは、医療施設で行われる看護だけではなく、小児と家族の支援について広く学び、看護師だけでなく様々な人・職種と協働するための理解を深めます。また、小児領域実習での看護実践に活かすための思考を養うことを目的とします。									
到達目標									
1. 地域で小児と家族を支えている仕組みや取り組みについて述べるができる 2. 特別な環境で生活している小児の特徴について、社会背景や家庭の特徴を踏まえて述べるができる 3. 小児が健やかな成長発達を遂げるために必要な活動について具体的に説明することができる 4. 小児看護に特徴的なアセスメントの視点を理解し、看護過程を展開することができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	倫理学、チーム医療、社会福祉、看護の本質、地域での暮らしを支える看護、母性看護学入門、母親になることを支える看護、小児看護学入門、こどもの健康と生活を支える看護			
◎		◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社 精神看護学概論/精神保健 メヂカルフレンド社 奈良間美保 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 地域において小児を支援する場	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・小児領域実習と国家試験の関連性、学習方法について ・地域での小児とその家族への支援について考える				専任教員	事前：シラバスの内容を読む 自分の住む市町村のホームページを見て、子どもや家族を支える取り組みにどのようなことがあるかを見ておく		
第2回	特別な環境で暮らす小児と家族に対する支援①	・乳児院の役割と機能 ・里親制度と特別養子縁組について				外部講師	事前：新生児期、乳児期の心身の発達と生活の特徴を復習する		
第3回	特別な環境で暮らす小児と家族に対する支援②	・乳児院での看護師の役割と看護の実際 ▶乳幼児期の発達上の特徴から、小児の育つ環境を考える				外部講師	事後：第2回の内容も含めて復習する		
第4回	特別な環境で暮らす小児と家族に対する支援③	・虐待を受けている子どもと家族への支援と看護				専任教員	事前：幼児期以降の心身の成長発達の特徴について復習する		
第5回	地域で暮らす小児と家族への支援①	・特別支援学校について ▶学校の概要、支援の内容 こどもの特徴について ・特別支援学校における看護師の役割と看護の実際				専任教員	事前：学童期から青年期の生活の特徴を復習する		

第6回	地域で暮らす小児と家族への支援②	・地域保健活動、難病、障がい児保健福祉について	専任教員	事後：講義資料を読み返す
第7回	小児と家族を取り巻く環境の実際①	・松本市出前講座 ▶地域の公的機関の取り組みを理解し、小児看護と地域の連携について考える	外部講師	事前：松本市のこどもや家族に対する福祉についてホームページを見ておく
第8回	小児と家族を取り巻く環境の実際②	・在留外国人の子どもと医療 ▶多文化共生社会において、日本に住む外国の子どもや子育て・医療に関する状況を考える ・様々な文化の子育てについてのグループ学習	専任教員 GW	事後：国際文化の講義も振り返りながら復習を行う
第9回	小児と家族を取り巻く環境の実際③	・グループ学習の発表会、意見交換	発表 講義	事前：グループ発表に向けて各自で発表内容をまとめる
第10回	看護過程①	・川崎病の急性期にある患児の事例展開 ▶小児期に特徴的なアセスメントの視点①	専任教員	事前：川崎病の病態、治療について復習する
第11回	看護過程②	・川崎病の急性期にある患児の事例展開 ▶小児期に特徴的なアセスメントの視点②	専任教員	事前：川崎病の病態・治療について、これまでの資料や教科書の見直しを行う
第12回	看護過程③	・川崎病の急性期にある患児の看護問題、長期目標・短期目標について	専任教員	事後：講義内容の復習を行う
第13回	看護過程④	・川崎病の看護計画について	専任教員	事後：講義内容の復習を行う
第14回	全体のまとめ	・小児看護活動の場と内容について復習とまとめ	専任教員	事後：実習に向けて資料を整理しておく
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
小児や家族を取り巻く地域社会について理解することは看護実践に深く関わります。広く社会にも目を向け、様々な視点から考察を深めましょう。また、小児看護実践に向けての事例展開があります。 小児をアセスメントする視点についての理解が深まるように、主体性をもって取り組みましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						1 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
母性看護学入門						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
母性看護学は人間の性に関わる枠組みとして、人間生活における性と生殖の機能および社会的性役割(ジェンダー)も包含し、人間の性をセクシュアリティとして、女性のライフサイクルだけでなく、すべての人間を対象としています。ここでは、母性看護の基盤となる概念を、母性看護を実践するうえでの考え方や方向性を関連付けて学びます。また、母性看護の沿革を通し母子保健の推移と現状を知り、母性・父性の発達課題や人間関係の根源となる母子関係、家族関係について理解することを目的としています。									
到達目標									
1. 母性看護の基盤となる概念が理解できる 2. 母性看護の現状と課題が理解できる 3. 母性看護に関する法律や施策を理解することができる 4. 女性のライフサイクル各期の健康維持・増進への看護について理解することができる 5. 女性のライフサイクル各期の健康課題について理解することができる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、倫理学、看護の本質、家族看護論			
○	○	○		○					
教科書・参考図書									
専門分野 母性看護学【1】母性看護学概論 医学書院 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法			
		主題(単元)	内容						
第1回	授業ガイダンス 母性とは	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・親になることと母性 ・ライフプランのデザイン				専任教員	事前：シラバスを事前に確認する 事後：講義内容の復習を行う		
第2回	基盤となる概念	・母子関係と家族発達 愛着・母指相互作用と母指関係形成 母親となることへの看護 家族機能 家族発達課題				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第3回	セクシュアリティ	・セクシュアリティとは ・セクシャリティの発達と課題				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第4回	リプロダクティブヘルス/ライツ	・リプロダクティブヘルス/ライツとは ・リプロダクティブヘルス/ライツの課題 ・女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス/ライツ				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第5回	ヘルスプロモーション	・ヘルスプロモーションとは ・女性の障害にわたる健康教育 ・ヘルスプロモーション活動における協働				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第6回	母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷	・母子をとり巻く環境 ・妊娠期から切れ目のない支援に関する法や施策 ・働く妊産婦への支援に関する法や施策 ・女性の健康支援に関する法や施策 ・暴力・虐待防止に関する法と施策 グループワーク				専任教員	事前：グループワークに活用できる資料を持ち寄る 事後：発表の準備		
第7回		・発表				専任教員	事前：発表の準備 事後：発表から母性看護における自己の考えをまとめる		
第8回	筆記試験					専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
母性看護学の基盤となる科目です。授業前後には予習・復習をしてください。 予習においては関連用語に対する該当ページを読んでおく。復習においては、教科書、授業資料などを用いて、学習した内容を整理し理解を深めてください。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
母親になることを支える看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の身体・心理・社会的側面から特徴を総合的に理解する必要があります。ここでは、個別性のある看護を実践するために学んだ知識を統合させ、健康を保持増進するための知識を修得することを目的とします。 また正常分娩後の褥婦の看護過程を展開し、妊娠・分娩・産褥期の経過を一連の流れの中で捉え、母子および家族、社会との関係性をウェルネスの視点から考えられることを目的とします。									
到達目標									
1. 妊娠・分娩・産褥の機序を説明できる									
2. 胎児期・新生児期の生理と発育について理解し述べるができる									
3. ハイリスク妊娠・分娩の問題点を理解し述べるができる									
4. 妊娠・分娩・産褥期の女性、および胎児・新生児の特性を踏まえた看護を説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅱ、共通看護技術、フィジカルアセスメント、看護実践のプロセス、母性看護学入門、女性の健康を支える看護、その人らしさを支える看護、こどもの健康と生活を支える看護、家族看護論			
○	○	○		○					
教科書・参考図書									
母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 専門分野 母性看護学【1】 母性看護学概論 医学書院 専門分野 母性看護学【2】 母性看護学各論 医学書院 中込さとこ ナーシング・グラフィカ 母性看護の実践 母性看護学② メディカ出版 井上裕美 病気がみえる 10 産科 メディックメディア									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 妊婦の看護①	• 授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 • 妊娠期における看護師の役割 • 妊婦の生理 ①妊娠に関する定義 ②妊娠の成立 ③胎児の成長 ④妊娠の生理(妊娠に伴う母体の変化) ⑤マイナートラブル				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：講義内容を復習する		
第2回	妊婦の看護② 妊娠経過	• 妊婦と胎児のアセスメント ①妊婦健康診査における看護 • 妊娠期健康維持のためのセルフマネジメント				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う		
第3回	妊婦の看護③ 妊娠期の異常と看護	• 異常妊娠 ①異所性妊娠 ②妊娠維持機能の異常 ③早産・切迫早産 ④妊娠に伴う異常 ⑤多胎 • 合併症を有する妊娠、妊娠期の感染症、羊水量の異常など				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う		
第4回	産婦の看護①	• 分娩期における看護師の役割 • 分娩の生理				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う		

第5回	産婦の看護② 分娩期の正常経過と看護	- 産婦と胎児のアセスメントについて ①分娩第1期のアセスメント ②分娩第2期のアセスメント ③分娩第3期のアセスメント ④分娩第4期のアセスメント - 産婦のニーズと看護 - 産婦と家族の心理	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第6回	産婦の看護③ 分娩期の異常と看護	- 分娩中の異常 ①産道の異常 ②娩出力の異常 ③娩出物(胎児)の異常 ④CPD ⑤臍帯の異常 ⑥胎児機能不全 ⑦分娩時裂傷 ⑧異常出血 - 産科の処置・手術	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第7回	褥婦の看護①	- 産褥期における看護師の役割 - 産褥の生理 ①全身の変化 ②生殖器の変化 ③褥婦と家族の心理・社会的変化	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第8回	褥婦の看護②	- 褥婦のアセスメントと看護 - 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護 - 母になることへの看護	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第9回	褥婦の看護③ 産褥期の異常と看護	産褥期の出血・血栓症、感染症、乳頭・乳房トラブル、産褥精神障害など	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第10回 第11回	母性看護に必要な看護技術	演習内容 - 妊娠期：レオポルド触診法など - 分娩期：胎盤計測など - 産褥期：子宮復古観察など	外部講師 演習 (実習室)	事前：演習内容について教科書の該当範囲を読む 事後：演習内容の復習
第12回	新生児期の看護 母乳育児と看護	- 新生児期における看護師の役割 - 新生児の生理、新生児のアセスメント - 母乳育児の世界的傾向 - 乳房の構造と機能・乳汁分泌メカニズム	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第13回 第14回	育児技術	演習内容 - 新生児のおむつ交換、沐浴 - バイタルサイン測定	外部講師 演習 (実習室)	事前：手順書の確認 事後：手順書の追加
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
母親になることを支える実習を行うにあたり、知識として重要な科目です。それぞれの単元の前後には予習・復習をしてから授業に臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
女性の健康を支える看護						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
母性看護学に関する概念と女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題から対象を理解する必要があります。ここでは、女性の健康と健康課題、予防法について理解を深め、母性看護に必要な知識を習得することを目的とします。									
到達目標									
1. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題が理解でき、必要な援助が説明できる 2. 女性を取り巻く社会の動向や家族に目を向け、母性看護における課題について具体的に述べられる 3. 地域に住む女性の健康に対する意識を知り、女性の健康管理に関する課題について述べるができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	フィジカルアセスメント、治療を支える援助技術、看護実践のプロセス、母性看護学入門、こどもの健康と生活を支える看護、家族看護論			
◎	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門分野 母性看護学【1】 母性看護学概論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 母性看護の対象理解	• 授業の概要と目標、授業の進め方や評価について説明 • 医療の動向と看護 • 母性看護学の対象、患者の特徴 • ライフサイクルにおける女性の健康と看護				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認をする 事後：講義内容を復習する		
第2回	女性のライフステージ各期における看護①	• 乳児期・幼児期・学童期の特徴と疾患 • 思春期の女性の特徴と疾患				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う		
第3回	女性のライフステージ各期における看護②	• 思春期の健康と看護 ①月経異常 ②性感染症 ③妊娠 ④月経に関する健康教育 ⑤性教育				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う		
第4回	女性のライフステージ各期における看護③	• 性成熟期の女性の特徴 ①身体的特徴 ②心理・社会的特徴 • 健康問題と看護 ①月経困難症 ②女性に特有のがん				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う		
第5回	女性のライフステージ各期における看護④	• 更年期・老年期の女性の特徴 ①身体的特徴 ②心理・社会的特徴 • 健康問題と看護 ①更年期・老年期に多い疾患				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う		
第6回	発達段階における健康課題・予防①	グループワーク • 各発達段階における健康課題、予防法について、グループに分かれまとめる				専任教員 演習(講堂)	事前：GW内容について整理しておく 事後：学習内容に追加		
第7回	発達段階における健康課題・予防①	グループワーク • 各発達段階における健康課題、予防法について、グループに分かれまとめる				専任教員 GW	事前：GW内容について整理しておく 事後：学習内容に追加		

第8回	発達段階における健康サポート	グループワーク ・発表、実際に身体を動かす	専任教員 GW 演習 (講堂)	事前：発表準備
第9回	地域に住む女性の健康予防	・松本市内における健康事業について ・健康予防のための方法	専任教員 GW	事前：地域における健康事業について調べておく 事後：学習内容に追加する
第10回	疾患を持つ患者の看護①	・疾患を持つ患者の経過と看護 ・急性期・回復期・慢性期・終末期の患者の看護	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第11回	疾患を持つ患者の看護②	・外来・病棟における看護 ・診察介助における看護	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第12回	臓器別疾患・手術を受ける患者の看護①	・乳がん患者の看護 ・子宮頸がん、子宮体がん患者	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第13回	臓器別疾患・手術を受ける患者の看護②	・事例から考える ・看護の実演演習	専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第14回	臓器別疾患・手術を受ける患者の看護③	・事例から考える ・看護の実演演習	専任教員 演習 (実習室)	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
女性の健康を支える実習を行うにあたり、知識として必要な科目です。積極的に学習してください。それぞれの単元の前には予習・復習をしてから授業に臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
その人らしさを支える看護						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
看護の対象となる人々のケアにおいては「その人らしさ」を尊重することを看護師は尊重しています。そして、病気があるうとなかろうと、誰しもが生き活きた生活や社会参加を可能にし、その人らしく生きられる社会を望んでいます。 ここでは疾患の有無にかかわらず一人の女性がその人らしく生きていくために必要な知識と看護の役割を学ぶことを目的とします。 また、正常分娩後の褥婦の看護過程を展開し、母子および家族、社会との関係性をウェルネスの視点から考えられることを目的とします。									
到達目標									
1. セクシュアリティ、性の多様性について現状がわかり述べることができる 2. 「その人らしさ」について説明できる 3. 自分らしく生きることの意味がわかり具体的に述べることができる 4. ウェルネスの視点をもって母性看護が展開できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅱ、病気の発生とメカニズム、治療を支える援助技術、母性看護学入門、女性の健康を支える看護、母親になることを支える看護、こどもの健康と生活を支える看護			
◎	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門分野 母性看護学【1】 母性看護学概論 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第4版 医歯薬出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 自分らしさ	• 授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 • 自分らしさって何?? • 自分を知る。自分ってこんな人				専任教員 個人ワーク	事前: シラバスの内容を事前に確認する 事後: 講義内容を復習する		
第2回	その人らしさ	• その人らしさって何?? • クラスメートを知ろう • 自己紹介 • その人らしさを支えるために必要なこと				専任教員	事前: 自己紹介準備 事後: 講義の内容を復習する		
第3回	セクシュアリティ①	• ヒトの発生 • 性分化のメカニズム • 性意識の発達 • 性の多様な要素				専任教員	事前: 教科書の該当範囲を読む 事後: 講義内容の復習を行う		
第4回	セクシュアリティ②	• LGBTQと医療 • 動画視聴から「性の多様性」「必要な看護」を考える				専任教員	事前: 教科書の該当範囲を読む 事後: 講義内容の復習を行う		
第5回	性感染症	• 性感染症とその予防 • 性感染症の医学的な背景と予防 • 性感染症の罹患状況と予防 • 性感染症に感染した女性の看護				外部講師	事前: 教科書の該当範囲を読む 事後: 講義内容の復習を行う		

第6回	家族計画	・家族計画とは ・受胎調節法 ・受胎調節法のあり方	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第7回	不妊症	・妊孕性と不妊 ・不妊の原因と治療 ・不妊カップルの心理・社会的反応 ・不妊治療を受ける女性の看護	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第8回	人工妊娠中絶	・人工妊娠中絶の現状 ・人工妊娠中絶術の概要とその影響 ・人工妊娠中絶を受ける女性の看護	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第9回	看護過程① 看護過程の特徴	・母性看護学における看護過程の特徴 ・ウェルネス志向型看護診断 ・アセスメント項目、アセスメントの視点	専任教員	事後：講義内容の復習を行う
第10回	看護過程② 産褥期の看護過程展開	・産褥期の経過、褥婦の理解 ・産褥期におけるアセスメント項目、アセスメントの視点	専任教員	事前：産褥期経過について予習しておく 事後：講義内容の復習を行う
第11回	看護過程③ 新生児の看護過程展開	・新生児の理解 ・新生児におけるアセスメント項目、アセスメントの視点	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習を行う
第12回	看護過程④	・経膈分娩後の褥婦の看護過程展開 ・事例患者の展開 退行性変化、進行性変化	専任教員	事後：講義内容の復習を行う
第13回	産褥期の看護①	・事例褥婦の演習 ・産褥期にある褥婦の看護の実際	専任教員 演習 (実習室)	事後：講義内容の復習を行い、 実習に向け整理しておく
第14回	産褥期の看護②	・事例褥婦の演習 ・産褥期にある褥婦の看護の実際	専任教員 演習 (実習室)	事後：講義内容の復習を行い、 実習に向け整理しておく
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
授業前後には予習・復習をしてください。 予習においては関連用語に対する該当ページを読んでおく。復習においては、教科書、授業資料などを用いて、学習した内容を整理し理解を深めてください。 母親になることを支える実習を行うにあたり、重要な科目です。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 15時間	
科目名						科目種類		担当教員	
精神看護学入門						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
精神看護学は、誕生から死に至るまで人々の心の発達から精神的健康の保持増進、危機への対処、こころが不健康な個人、その家族の生活援助・指導、社会復帰・その後のフォロー迄を包括するものです。そのためには、人間のこころとこころの健康を傷害する基本的な知識を理解する必要があります。ここでは、その人らしく生きるための精神看護の目的と意義、心を病む人との関係のあり方を考えることを目的としています。									
到達目標									
1. 精神看護の目的が説明できる 2. 再構成の目的を説明できる 3. 精神看護における患者―看護師関係を説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	こころの健康、看護の本質、看護病態論Ⅵ			
◎					◎				
教科書・参考図書									
岩崎弥生 新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メヂカルフレンド社 岩崎弥生 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 専門分野 精神看護学【1】 精神看護の基礎 医学書院 専門分野 精神看護学【2】 精神看護の展開 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 精神看護の目的と役割①	• 授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 • 精神看護学とは何か ▶日本の精神医療の現状(映像) ▶精神看護の課題				専任講師	事前：シラバスの内容を読む 事後：講義内容を復習する		
第2回	精神看護の目的と役割②	• 人間のこころと行動 ▶脳の構造と精神の機能 ▶こころの危機と危機介入				専任教員 GW	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第3回	精神障害をもつ人を守る法制度	• 精神科医療にかかわる法律 • 精神障害者の福祉にかかわる法律				専任講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第4回	関係構築①	• 「治療的関わり」の考え方 ▶精神科看護におけるコミュニケーションの方法				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第5回	関係構築②	• 精神科看護におけるコミュニケーションの実践				専任教員 演習	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：プロセスレコードと再構成記載		
第6回	関係構築③	• 対象者との関係の振り返り ▶自己洞察、ニードの見極め ▶ペプロウ「人間関係の看護論」 ▶プロセスコード				専任教員 演習	事後：学びの整理		
第7回	リエゾン精神看護	• リエゾン精神看護 ▶活動 ▶ケアの実際				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第8回	筆記試験	• まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
• 演習は積極的に参加してください。 • こころの健康の資料を持参してください。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
精神疾患患者の安全と命を守る看護						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
精神疾患により医療機関を受診する人は年々増加しています。そして自ら命を絶つ人も増加しており国際的にも高い傾向があります。精神疾患を持つ患者は時に急性症状が激しくなるため、患者の心身の安全を守る対応が必要となりますが、心身の安全を守る行為が人権の侵害に値してしまう場合があります。ここでは、心を病む人の生命(いのち)を守るため病院での事故防止・安全管理や、精神疾患別の必要な看護について理解することを目的としています。									
到達目標									
1. 心を病む人の治療から必要な看護が述べられる 2. 心を病む人の安全を保つ能力の支援が述べられる 3. 精神疾患別の支援を具体的に説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	こころの健康、精神看護学入門、看護病態論Ⅵ、精神疾患患者の生活を支える看護、ストレスマネジメント論			
◎	◎	◎			◎				
教科書・参考図書									
岩崎弥生 新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メディカルフレンド社 岩崎弥生 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社 専門分野 精神看護学【1】 精神看護の基礎 医学書院 専門分野 精神看護学【2】 精神看護の展開 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 精神科医療①	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当教員や評価について説明 ・精神科看護におけるケアの方法 ▶日常生活行動の援助 ▶服薬治療に関わる援助				専任教員 GW	事前：シラバスの内容を読む 看護病態論Ⅵの資料 事後：講義内容を復習する		
第2回	精神科医療②	・こころを病む人の治療と看護 ▶電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法				専任教員 GW	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第3回	安全を守る看護①	・入院時の看護(事例を通して) ・安全を保つための能力 ▶危険物・私物管理、外出・外泊、通信面会				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第4回	安全を守る看護②	・希死念慮・自殺企図 ▶援助方法				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第5回	安全を守る看護③	・興奮と暴力 ▶CVTTT ▶離院 ・隔離と身体拘束 ▶行動制限と人権擁護 ▶隔離室の治療的環境と合併症				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第6回	統合失調症患者の看護①	・治療時期ごとの治療プロセスと看護①				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		

第7回	統合失調症患者の看護②	・治療時期ごとの治療プロセスと看護②	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第8回	気分(感情)障害のある患者の看護①	・事例から考える看護：うつ病	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第9回	気分(感情)障害のある患者の看護②	・事例から考える看護：双極性障害	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第10回	神経性障害、ストレス関連障害、身体性障害	・症状の特徴 ・援助方法	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第11回	パーソナリティ障害	・症状の特徴 ・援助方法	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第12回	アディクション(嗜癖)のある患者の看護	・症状の特徴 ・援助方法	専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第13回	精神疾患/障害を持つ子どもへの看護①	・神経症やせ症摂食制限型 ・援助方法	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第14回	精神疾患/障害を持つ子どもへの看護②	・自閉症スペクトラム、発達障害 ・援助方法	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
・関連性のある講義資料を活用してください				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
精神疾患患者の生活を支える看護						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
精神疾患により医療機関を受診する人は年々増加しています。入院治療においては短縮しつつあるも未だ平均在院日数の長さは世界において突出しており、日本の他病床と比較しても長期となっています。そのため入院患者は地域生活の機会を逃している状況があります。そこで精神疾患がある人が地域社会でその人らしく自己実現していくためには支援が必要となります。 ここでは、心を病む人を持つ人々の日常生活スキルが向上できる支援について学びます。また、心を病むもつ人々の地域生活への移行、生活の場の確保、地域で再び日常生活が送れるための支援について理解することを目的としています。									
到達目標									
1. 心を病むとともにその人らしく生きるための看護を述べられる 2. 地域生活への移行と生活支援について具体的に述べられる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	こころの健康、精神看護学入門、精神疾患患者の安全と命を守る看護、ストレスマネジメント論			
◎	◎	◎			◎				
教科書・参考図書									
専門分野 精神看護学【1】 精神看護の基礎 医学書院 専門分野 精神看護学【2】 精神看護の展開 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	授業ガイダンス 普遍的セルフケア要素への援助		・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・リカバリーとその支援			専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する。 事後：講義内容を復習する		
第2回	その人らしく生きるための看護①		・生育歴、ライフヒストリー ・オレム-アンダーウッド理論を使った精神看護①						
第3回	その人らしく生きるための看護②		・オレム-アンダーウッド理論を使った精神看護②			専任教員 個人ワーク	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第4回	その人らしく生きるための看護③		・オレム-アンダーウッド理論を使った精神看護③			専任教員 GW	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第5回	その人らしく生きるための看護④		・リカバリーの実現を支える看護①			専任教員 GW	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第6回	その人らしく生きるための看護⑤		・リカバリーの実現を支える看護②			専任教員 個人ワーク	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第7回	関係構築①		・再構成の目的と意義 ・再構成演習			専任教員 個人ワーク	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第8回	関係構築		・再構成を用いたカンファレンス			専任教員 GW			

第9回	「入院医療」から「地域社会」での生活	• 地域における保健・医療・福祉への転換 ▶ 長期入院が減少しない日本の現状 ▶ 長期入院患者の退院を困難にしている要因	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第10回	地域生活を支える社会資源の活用①	• 自立支援給付と社会生活支援事業 • 地域生活を支えるサービス • 就労支援 • 当事者・家族による相互支援	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第11回	地域生活支援の実際	• 訪問看護をととした地域生活支援 • 訪問看護の目的と看護師の役割	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第12回	地域生活支援①	• 高校生への模擬授業の準備①	専任教員 GW	事後：講義計画書
第13回	地域生活支援②	• 高校生への模擬授業の準備①	専任教員 GW	事後：資料作成する
第14回	地域生活支援③	• チーム毎にまとめた内容を発表する • 質疑応答	専任教員 発表会	事後：評価表
第15回	筆記試験	• まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
事前に調べたものは忘れず持参してきてください グループ学習では一人一人が積極的に意見を出し合って主体的にすすめてください こころの健康と生活を支える実習の記録や資料を活用してください				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 15時間	
科目名						科目種類		担当教員	
ストレスマネジメント論						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
現代社会はストレス社会と言われています。こころとからだは互いに影響しあう関係性にあり、ストレスは多くの身体症状を引き起こします。人がその人らしく生き活きと暮らすためには、ストレスを最小限に止めることや、ストレスを解消していく技を持ち活用していくことが大切です。ここではストレス発生の仕組み、ストレスがこころへ与える影響について学び、こころの健康について基本的な知識およびストレスコーピングについて理解します。									
到達目標									
1. ストレスの概念、ストレッサー、ストレス反応について述べることができる 2. 自らのストレス反応を理解し、自分に合ったストレスコーピング方法が列挙できる 3. 自己効力感を高める方法を述べられる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	こころの健康、精神看護学入門			
◎	◎				◎				
教科書・参考図書									
教科書なし									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス メンタルヘルスケア	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当教員や評価について説明 ・ライフサイクルにおけるメンタルヘルスの特徴				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：どのような時にストレスが生じるが考える		
第2回	ストレスの理解とコーピング	・「情動のハイジャック」動画鑑賞 ・最近あったストレス体験を発表 ・ストレッサーの種類とストレスで起こる身体疾患 ・コーピングと8つの対応法 ・自分のコーピング方略を考える				外部講師	・(A) 疲れやストレスがもたらす心身の悪影響や自分にとっての不調の現れ方を考えてくる ・(B) 8つのコーピング方略の暗記		
第3回	自分の感情を理解してコーピングに繋げよう	・(A) 学びの共有(宿題の発表) ・(B) 小テスト ・ストレスの出現事例のサンプル ・感情と思考のメカニズム ・感情のプルチックモデル ・呼吸と体操によるストレス緩和法				外部講師	・(C) 自分はなにをする時に最もストレスを感じるのか、また、どんな時に喜びを感じるのか考えてみよう ・呼吸法を練習してくる		
第4回	マズローの承認欲求による心の育み方	・(C) 学びの共有(宿題発表) ・自己肯定感と自己効力感 ・自尊心と自負心 ・マズローの5段階 承認欲求 ・看護師に大切な自己有用感とは ・「安心安全」な環境が全てを作る				外部講師	・(D) どうしたら自己効力感を持てるようになるのか考えてみよう(検索で出てくる答えではなく) ・(E) 5つの心理用語を記述できるようにしてくる		
第5回	想像力が共感力を作る～2つの共感力を学ぼう	・(D) 学びの共有 ・(E) 小テスト ・「リトルミスサンシャイン」観賞 ・2つの共感力が自他の心を救う ・ストレスマネジメントのためのポジティブ心理学 ・自己効力感はどうのように育つ？				外部講師	・映画「インサイドヘッド」を見てく ・(F) マズローの5段階 承認欲求を覚える ・(G) セリグマンの図式を完成させ暗記する		
第6回	インサイドヘッド～感情理解と心のトランプカード	・(F)(G) 小テスト ・アンガーマネージTFAカード(嫌な出来事が起きた時の思考の整理を学ぶ) ・看護師としての体調管理と自律神経の理解 ・集中力とメンタルヘルス(2つのゲームで集中しよう)				外部講師	・(H) 自分の考える自己効力感を高める方法やステップについて記述できるようにしてくる(先生の考える自己効力感の高め方はテスト返却時に紹介します)		
第7回	星野君の二塁打について考えてみよう	・グループワーク(ディベート) ・傾聴とお話の聞き方 ・アサーション(自他尊重の実現) ・Yes/bad法 ・テストに出る箇所のたまかな確認				外部講師	・テスト勉強		
第8回	筆記試験	・まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
クラスメンバー同士楽しみながらストレスマネジメントについて学びましょう									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						3年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
国際看護・災害看護						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
国際看護学									
移動手段の発達に伴い人間の活動は国境を越えて拡大しており、来日する外国人の数も増加し、出身国も多様になっています。外国人が海外の異なる保健医療システムに応じた受診行動をとるのは簡単ではありません。そのため滞在している外国人に適切な看護支援を行うことが求められます。また、各国の医療水準には差があり健康格差に影響を及ぼしています。ここでは、グローバルな視点に立ち、文化、社会経済、政治、教育などの現状を視野に入れ、世界の健康について学びます。また、開発途上国の医療保健について理解し、人間科学的な視点も踏まえた看護の役割について理解することを目的としています。 災害には天災や人災など様々な種類があり、災害は人々の生命と生活を脅かし、生活基盤を破壊します。そして人々は災害により身体的・心理的・社会的に大きな影響を受け健康障害を引き起こします。そこで、健康障害を予防もしくは最小限にするためには災害発生直後から適切な看護を提供することが重要になります。ここでは、災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルすべての時期において災害支援を行うことの必要性和、支援を行うための基礎知識を習得することを目的としています。									
到達目標									
1. 国際看護学の概念を学び、国際協力の必要性が説明できる 2. 多様な文化・価値観を踏まえた看護について具体的に述べることができる 3. 災害が人々の健康と生活におよぼす影響について述べられる 4. 災害サイクルに応じた看護の役割が説明できる 5. 災害時要配慮者への看護を具体的にあげることができる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	健康と社会 国際文化 看護の本質			
◎	◎	◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
専門分野 看護の統合と実践【2】 災害看護学・国際看護 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 国際看護学の概念	・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・グローバルな視点 ・国際看護の定義と目的 ・国際看護の対象 ・世界の健康問題の現状				専任教員	事前：国際文化の復習をしてくる		
第2回	異文化理解と国際看護活動	・文化的存在としての人間理解 ・文化を考慮した看護 ・国際看護活動に必要な能力 ・海外における看護活動				専任教員	事後：国際文化と関連させて復習する		
第3回	国際看護活動の実際	・開発協力と看護 ・近年の世界における災害と難民・国民 ・国際救護活動の基本理念				専任教員	事後：講義内容の復習		
第4回	開発途上国への支援	・開発途上国への支援の実際(体験談から学ぶ)				外部講師 (海外協力 など体験者)	事後：講義内容の復習		

第5回	災害看護の概念	- 災害の定義・分類、種類と健康被害 - 災害と法制度 - 災害医療の特徴、災害時の傷病の特徴 - 災害看護の基礎知識	専任教員	事前：日本における近年の災害を調べてくる
第6回	災害看護の特徴と看護活動	- 避難所、仮設住宅における看護 - 防災教育 - 災害時のボランティア活動	専任教員	事後：講義内容の復習
第7回	災害時の支援体制、医療体制	- 災害拠点病院 - 災害派遣医療チームの活動と多職種協働 - 災害時の倫理原則と課題	専任教員	事後：講義内容の復習
第8回	災害サイクルに応じた看護	- 超急性期・急性期・亜急性期の看護 - 慢性期・復興期の看護 - 静穏期の看護	専任教員	事後：災害サイクルの特徴をまとめる
第9回	要配慮者への看護	- 子ども・妊産婦・高齢者に対する災害看護 - 障害者・精神障害者に対する災害看護 - 在日外国人に対する災害看護	専任教員	事後：各要配慮者の特徴をまとめて復習する
第10回	災害と心のケア	- 災害がもたらす精神的影響 - こころのケアとは - 被災者のこころのケア - 救済者のストレスとこころのケア	専任教員	事後：災害サイクルに応じたこころのケアを整理して復習する
第11回	CBRNEへの対応	- 化学剤、生物剤、放射線災害 - 緊急被ばくの医療の特徴 - 次回演習の計画立案	専任教員 GW	事前：過去の原子力災害を調べてくる
第12回	災害訓練①	演習内容 (GW) - トリアージ - 応急処置 - 搬送	専任教員 演習 (学外)	事前：トリアージを予習してくる 事後：演習の振り返りをする
第13回	災害訓練②	演習内容 (GW) - 避難所設営 - トイレ作成 - 炊き出しなど	専任教員 演習	事後：演習の振り返りをする
第14回	災害訓練①②演習のまとめ	- グループで振り返り - 発表	専任教員 GW 発表会	事後：本日の学びをまとめる
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
国際看護：筆記試験30% 災害看護：筆記試験70%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
予習、復習をして講義に臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						2年次 前期		1単位 15時間	
科目名						科目種類		担当教員	
医療安全						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
急速な高齢化と医療技術の進歩で、看護職に求められる能力や役割も大きく変化しています。高度・複雑化する医療においては様々な薬剤の使用や医療機器の導入、24時間継続してなされる医療の現場では医療事故を防ぎ、安全な医療を提供する必要があります。看護師は対象になされる行為において最終的な実践者となることが多いうえに、多様な業務を担当するため細心の注意を払いながら看護を提供する必要があります。 ここでは医療安全における基本的な知識や看護職の責務と役割、医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法を習得することを目的としています。									
到達目標									
1. 医療事故に関する基礎的知識が述べられる。 2. 医療事故の定義と事故発生のメカニズムが説明できる 3. 医療事故の予防策について説明できる 4. 危険予知能力を高め、感受性を鋭くするためのKYT(危険予知トレーニング)が実施できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	総合医療論 看護の本質 共通看護技術			
◎	◎	◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
専門分野 看護の統合と実践【2】 医療安全 医学書院									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法	授業外学習		
		主題(単元)	内容						
第1回		授業ガイダンス 医療安全の概念	・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・医療事故と医療安全の定義 ・医療安全を学ぶことの重要性 ・国や組織の医療安全対策 ・看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度			専任教員 外部講師	事前：シラバスを読んでくる 事後：医療安全の定義を復習する		
第2回		医療事故の考え方	・医療安全への取り組みと医療の質の評価 ・事故発生のメカニズムとリスクマネジメント ・看護事故の構造 ・看護事故防止の考え方			外部講師	事前：病院で予想される医療事故を考えてくる		
第3回		診療の補助業務に伴う事故防止	・患者誤認の防止 ・チューブ管理と事故防止 ・与薬事故の要因と対策 ・点滴漏れ事故の要因と対策 ・輸血業務と事故防止			外部講師	事前：看護共通技術の安全、臨床検査における看護師の役割を学習してくる 事後：課題①各種事故の要因と予防をまとめる		
第4回		療養上の世話における事故防止	・転倒転落事故の要因と対策 ・経管栄養業務と事故防止 ・窒息、誤嚥事故防止 ・入浴介助、電法における事故防止			外部講師	事後：課題②各種事故の要因と予防をまとめる		
第5回		KYT(危険予知トレーニング)	・医療現場のイラストの中に潜む危険と対策を考える			外部講師 GW	事後：レポートを書く		
第6回		根本原因分析	・医療安全とコミュニケーション ・看護師の労働安全衛生上の事故防止 ①職業感染 ②抗がん剤の暴露 ③放射線被曝 ④ラテックスアレルギー			外部講師	事後：復習をする		
第7回		組織的な安全管理体制	・組織としての医療安全対策 ・重大事故発生時の医療チームと組織の対応			外部講師	事前：テキストを読んでくる		
第8回		筆記試験	・まとめ			専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
予習、復習をして講義に臨んでください。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						3 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護マネジメント						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動です。看護職はいかなる状況においても健康障害を持つ対象に効果的に看護サービスを提供するため、看護職同士の協働、他職種との連携を深めていきます。また、対象を取り巻くあらゆる資源を十分に維持・活用する仕組みの理解が必要となります。そして、ケアを提供している全ての看護職は看護管理を担う役割があることを理解し看護を実践する必要があります。									
ここでは保健・医療組織の一員として質の高い効率的・効果的看護サービスを提供するため、看護管理の基本的な知識の習得を目的としています。									
到達目標									
1. 質の高い看護サービスを提供するための看護職として担う役割が述べられる 2. 看護ケアマネジメントと看護サービスマネジメントの特徴を比較して述べられる 3. 看護マネジメントに必要な能力について具体例を挙げ述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	看護の本質、総合医療論、チーム医療			
○		○	○	○					
教科書・参考図書									
専門分野 看護の統合と実践【1】 看護管理 医学書院									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法	授業外学習		
		主題(単元)	内容						
第1回	授業ガイダンス 看護管理の基礎知識	●授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ●看護管理の定義・歴史 ●看護管理プロセス ●組織と看護サービスの組織化				専任教員	事前：看護の定義・目的を復習してくる		
第2回	看護ケアのマネジメント①	●看護ケアマネジメント ●ケア管理、優先度の決定、時間管理 ●看護業務のマネジメント				専任教員	事後：復習する		
第3回	看護ケアのマネジメント②	●多重課題への対処 ●看護職の健康管理				専任教員 個人ワーク GW	事後：課題①自己の行動を振り返る		
第4回	看護サービスのマネジメント	●看護サービスマネジメント ●人事労務管理、物的資源管理、患者管理 ●情報管理、看護提供システム				専任教員	事後：復習する		
第5回	看護サービスの評価	●看護の質の向上 ●看護のケア評価				専任教員	事後：復習する		
第6回	看護管理に求められる能力	●マネジメントに必要な知識と技術 ●多職種のチームワークとコミュニケーション				専任教員 個人ワーク GW	事後：課題②看護マネジメントにおける看護師の役割を考える		
第7回	看護師のキャリア開発・継続教育	●目標管理 ●現任教育 ●看護職のキャリア形成				専任教員	事後：復習する		
第8回	筆記試験	●まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験 :80% レポート①:10% 多重課題への対応を振り返り自己課題と対策について述べる レポート②:10% 看護マネジメントにおける看護師の役割について考え、自己がどのように看護マネジメントへ参画するかについて述べる									
授業を受けるにあたっての留意点など									
予習、復習をして講義に臨んでください。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門分野						3年次 後期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護の統合						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護の提供には知識・技術・態度が必要となりますが、これらは単独で使うのではなく、統合して活用することが重要となります。3年間の講義・実習を客観的に振り返り、卒業時の到達目標にどの程度達しており、不足している知識・技術・態度は何かを明確にすることで補充する内容がわかります。卒業後は、多くの業務を実行していく必要があるため多重課題への対応や時間管理などの視点を身に付ける必要があります。 ここでは、卒業後に求められるチーム看護における総合実践力を身につけます。また、今までの学習や実習を振り返り、将来展望を持ち自己の看護観をあきらかにすることを目的としています。									
到達目標									
1. 看護技術の自己の課題を明確にし、総合力を身につけ援助を実施できる 2. 看護実践におけるチーム看護、多重課題への対応、時間管理が実施できる 3. 看護者としての自己の傾向を知り、卒業後の自己の看護職としての心構えと看護師像が述べられる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅰ～Ⅵ、看護の本質、臨床判断能力、看護マネジメント			
◎	◎	◎	◎	◎					
教科書・参考図書									
教科書：なし プリントを適宜配布 参考文献：池西静江 なぜ臨床判断能力か：看護教育2020 vol.61 No2 医学書院 看護職としての社会人基礎力の育て方 日本看護協会出版会									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 看護チームとは①	・授業の概要と目標、授業の進め方、評価について説明 ・看護チームとは ・チームで働くうえで必要な力 ・チームを効果的に発揮させるために				専任教員	事前：チームで働くうえで必要な力を考えておく		
第2回	看護チームとは②	・チームへの貢献 ・協働するためのスキルとは ・自己課題の明確化				専任教員	事前：個人ファイルを振り返り、自己の課題を確認してくる		
第3回	複数患者受け持ち①	・複数事例患者の病態や状態の把握 ▶ アセスメント ▶ 看護計画立案				専任教員	事前：看護マネジメントの復習 事後：事例患者のアセスメントを深める		
第4回	複数患者受け持ち演習②	・複数事例患者の行動計画立案 ・優先度の決定、時間管理				専任教員 個人ワーク	事前：看護マネジメントの復習 事後：考え方の復習		
第5回	継続看護	・2チーム看護における情報共有の意義、方法 ・患者ケアカンファレンスの実施				専任教員	事前：看護マネジメントの復習		
第6回	複数患者受け持ち演習③	・複数事例患者の演習 行動計画、看護計画に沿って必要な看護を実施する ・チームで突発状況への対応を検討				専任教員 演習(実習室) 個人ワーク GW	事前：看護マネジメントの復習 事後：本時の内容から不足部分を学習		

第7回	複数患者受け持ち演習④	- 複数事例患者の演習 - 行動計画、看護計画に沿って必要な看護を実施する - 実施後振り返りから、優先順位、看護計画の修正	専任教員 演習 (実習室) 個人ワーク GW	事前：第6回講義内容を復習 事後：本時の内容から不足部分を学習
第8回	チーム看護評価	- 統合実習チーム振り返り、評価 - 実習から見えてきたチームで働くうえで必要な力 - 自己課題の明確化	専任教員	事前：個人ファイルを振り返り、自己の課題を確認してくる
第9回	看護技術演習①	- 技術経験録から不足技術の確認・演習 - 演習計画の立案	専任教員 個人ワーク	事前：技術経験録の確認
第10回	看護技術演習②	- 技術試験患者の提示 - 技術試験に向けて患者の看護計画立案	専任教員 個人ワーク 演習 (実習室)	事後：次回講義に向けて看護計画を深める
第11回	看護技術演習③	技術試験に向けて技術演習	専任教員 演習 (実習室)	事前：必要な技術の手順を確認してくる
第12回	看護観①	3年間の講義、実習を通して、自己の看護観を明確にする	専任教員 個人ワーク	事前：自己の考えをまとめておく
第13回	看護観②	3年間の講義、実習を通して、自己の看護観を明確にする - 発表に向けての準備	専任教員	事後：発表に向けての練習
第14回	筆記試験	まとめ	専任教員	
第15回	技術試験	技術試験後振り返り	専任教員	
評価方法				
技術試験：50% 筆記試験：50%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
3年間の集大成となる科目です。これまでの既習の科目を復習して、講義に臨んでください。				